

東京家政大学

看護学科10周年記念誌

－「その人らしく生活する」を支える看護実践者の育成－



東京家政大学 健康科学部 看護学科

目 次

ご挨拶・祝辞	i-1
教育・研究	ii-1
【教育理念と3つのポリシー】	ii-3
＜教育理念＞	ii-3
＜ディプロマポリシー(DP)＞	ii-3
＜カリキュラムポリシー(CP)＞	ii-4
＜アドミッションポリシー(AP)＞	ii-6
【入学者】	ii-7
【教育の特色】	ii-8
＜看護学科の学びの特色＞	ii-8
＜看護師課程・助産師課程・保健師課程＞	ii-9
＜臨地実習＞	ii-9
＜各看護学領域の教育／看護学科における医学教育＞	ii-13
【教育の質の維持・向上】	ii-18
＜内部質保証体制＞	ii-18
＜看護学教育評価＞	ii-19
＜GOOD授業賞＞	ii-19
＜学科教育強化費による教育の強化・充実＞	ii-19
＜教育方法・教材の開発＞	ii-20
＜学科主催FD＞	ii-20
【クラス担任制・クラス懇談会】	ii-21
【フレッシュマンセミナー・導入教育】	ii-21
【国家試験支援】	ii-22
【就職支援・卒業後のキャリア形成支援】	ii-24
＜就職支援＞	ii-24
＜卒業後の進路＞	ii-24
＜母校に帰る日＞	ii-25
【卒業生たちの活躍】	ii-25
【看護学科同窓会「緑看会」】	ii-26
＜緑看会役員からのメッセージ＞	ii-27

【在校生たちの活躍】	ii-29
<狭山緑苑祭>	ii-29
<ボランティア活動>	ii-29
<人命救助>	ii-30
<スポーツ>	ii-30
<在校生からのメッセージ>	ii-31
【教員による地域貢献・研究活動】	ii-33
<「かせい森の産後ケアサロン」の産後ケア事業>	ii-33
<学科シンポジウム>	ii-33
<地域住民の学習>	ii-33
<看護職の継続教育>	ii-34
<新型コロナウイルス感染症対策に係る保健所支援>	ii-35
<その他の地域貢献>	ii-35
<東京家政大学 研究ブランディング事業／総合研究プロジェクト>	ii-35
<東京家政大学 女性未来研究所>	ii-35
<埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)>	ii-35
<教育方法・教材の開発研究>	ii-36
<学会表彰>	ii-36
<日本学術振興会 科学研究費助成事業(科研費)>	ii-37
<その他競争的研究費>	ii-37

資 料	iii-1
【年表】	iii-2
【看護学科 専任教員】	iii-3
【理事長・学長】	iii-3
【狭山キャンパスマップ】	iii-4
【カリキュラムツリー(平成26～29年度入学生)】	iii-5
【カリキュラムツリー(平成30～令和3年度入学生)】	iii-6
【カリキュラムツリー(令和4年度以降入学生)】	iii-7
【平成30年度カリキュラム改正 新旧対照表】	iii-8
【令和4年度カリキュラム改正 新旧対照表】	iii-10
【主な就職先・進学先】	iii-12
【東京家政大学校歌】	iii-13



ご挨拶・祝辞



看護「三冠王」達成おめでとう

理事長 菅谷 定彦

狭山キャンパスに集う健康科学部看護学科は創立10年を待たずに看護師、保健師、助産師の国家試験で3分野そろって100%合格の偉業を達成した。野球の打撃部門では同一シーズン中に首位打者、ホームラン王、打点王に輝いた選手に与えられる「三冠王」の称号があるが、看護学科は「看護3部門三冠王」を、新型コロナ大流行などの困難を乗り越え見事に達成した。

初代看護学部長、2018年のリハビリテーション学科増設で健康科学学部長、さらに副学長も務めた今留忍先生、鈴木幹子健康科学学部長(前看護学学科長)及び安達祐子、山口佳子 元、現看護学学科長ら教職員の皆様、そして卒業生、現役学生それぞれの努力を高く評価しつつ喜びを分かち合いたい。

旧看護学部は旧子ども学部と共に2014年4月、狭山キャンパス開学でスタートした。私は現在理事長就任8年目だが、これに先立つ10年前から2年間監事を務めた。私と看護学科は「同期の桜」と私は考え、その状況を見守ってきただけに今回の三冠王達成はわがことのように嬉しく思い、東京家政大学の誇りである。

しかしトップの座を維持するのは簡単ではない。わが国の少子化は歯止めがきかず、4年制女子大は過去25年間に年1校余が姿を消し98校から70校に減った。看護学科にかかわる教職員、学生そして理事長の私もここで一段と気を引き締め、間断なき前進をし続けねばならない。



ご挨拶

学 長 井上 俊哉

看護学科を支えてこられた教職員、学生の皆さんはじめ、看護学科に関わってこられたすべての皆様、看護学科の開設10周年、まことにおめでとうございます。

平成26(2014)年の看護学部看護学科(平成30年から健康科学部看護学科)の開設は、昭和61(1986)年の文学部設置以来、本学にとって28年ぶりの新学部新学科の設置でした。まったく新しい領域の学科であり、他大学、他機関の多くの方に協力していただくことで、立ち上げが可能になりました。当時協力してくださった方々にあらためて深く感謝いたします。私自身、看護学科が設置された狭山校舎で勤務していた

こともあって、看護学科を応援する気持ちは人一倍でした。一期生から学生たちの頑張り、先生方の並大抵ではない努力のおかげで、100名の卒業生が国家試験にほぼ毎年100%の合格を勝ち取るなど素晴らしい実績を上げ、看護学科はこの10年で東京家政大学を代表する学科の一つになりました。

私はこれまで3度の入院経験があります。入院中は医師の世話になったのはもちろんですが、まさきに頭に浮かぶのは看護師の方々です。看護師は患者の心に寄り添い、そのニーズに応えることができる唯一無二の存在です。医療の技術や知識はもちろんのこと、患者を理解し共感する力を身に付けた本学看護学科の卒業生たちが患者さんやその家族に深い影響を与えていることを誇りに思います。

看護学科の10周年を迎えるにあたり、学科の成長に貢献してこられたすべての方々に心からの感謝を申し上げます。皆様の努力と献身があったからこそ、このような素晴らしい節目を迎えることができました。看護学科の更なる発展と成功を祈念し、心よりお祝い申し上げます。



ご挨拶

健康科学部長 鈴木 幹子

東京家政大学における医療専門職の人材育成が狭山キャンパスから開始されて10年が経過しました。2014年に看護学科が、2018年にはリハビリテーション学科が開設され、健康科学部は2学科体制となっています。2012年、恩師である森美智子先生から看護学科開設のお話をうかがい、驚きと同時にワクワクした記憶があります。長い歴史のある文系の女子大学に看護学科が開設されるのは、画期的な出来事で、新たな挑戦の一員に加えていただけることが光栄で胸がいっぱいになりました。開設前、池袋の中華レストランで、当時の学長だった木元先生と岩井理事、森先生、前学部長の今留先生方と、新たな看護学科への熱い思いを語りあったことが思い出されます。開設前からこれまで、多くの方にお力添えをいただきました。特に実習施設の開拓には岩井理事をはじめ準備委員の皆様にとにかくご尽力を賜り、誠にありがとうございました。また、学生の教育にご支援を賜った教職員や後援会の皆様、実習指導に関わってくださった実習施設の皆様に深く感謝申し上げます。本学科の卒業生は、現場で高評価をいただいております。OG会での先輩のお話からもその目覚ましい成長ぶりが伝わってきて感慨無量です。この10年の間にはいろいろなことがありました。2020年に発生した新型コロナウイルスの感染拡大の危機には教員も学生も一丸となって乗り越えることができました。今後も本学科が大切にしている「その人らしい生活を支える看護」を追求し、次世代の看護を担う人材育成に取り組んでまいります。



ご挨拶

看護学科長 山口 佳子

実習施設や地元自治体など関係者の皆様、在校生や卒業生ならびにご家族の皆様、本学教職員の皆様にご支援ご協力を賜り、本学看護学科は10周年を迎えることができました。心より感謝申し上げます。

私は、同じ大学に勤務されていて親交のあった今留初代学部長からのお声掛けで、保健師課程の実習先確保や公衆衛生看護学領域担当科目のシラバス作成等に関わらせていただくようになり、2014年度の看護学科開設時に本学に着任いたしました。新設学科ならではの困難は多々ありましたが、皆で力を合わせて一から学科をつくりあげていく充実感や達成感が勝りました。

2022年度からは学科長を務めさせていただいておりますが、少子高齢化の進展や家族形態の変化、グローバル化、価値観やライフスタイルの多様化、災害の頻発、新型コロナウイルス感染症のまん延などにより、看護ニーズは高まる一方です。本学看護学科は、社会の変化に応じた看護教育を追究するため、2018年度と2022年度にカリキュラムを改正し、2018年度にはリハビリテーション学科開設に伴い看護学部看護学科から健康科学部看護学科へと改組しました。時代に合わせてしなやかに変化を遂げつつ、その根底にある教育理念は変わりません。これまで、これからも、建学の精神「自主自律」に基づき、あらゆる年代の個人・家族・集団・組織・地域社会を対象として健康の保持・増進・回復を図り、「その人らしく生活する」を支援できる看護専門職を育成してまいります。



これからも人に寄り添い支援できる人材養成を!!

常務理事 岩井 絹江

看護学科開設10周年おめでとうございます。

看護学科の先生方の日頃の心を込めた教育と、たゆまぬご努力で学生がしっかり育っています。さらに、看護師課程、助産師課程、保健師課程の国家試験の高合格率を維持するための、あたたかく、厳しく丁寧な教育とご指導に心より感謝と御礼を申し上げます。

<看護学科誕生の経緯>

入試担当事務責任者になった30年前から東京家政大学に看護・医療分野が欲しいと思い続け、当時の清水司理事長・木元幸一学長の思いと繋がったのは15年前。

清水前理事長からは「まず介護福祉分野を」との希望。木元学長からは「薬学部の検討も」との提案もあり学内で、可能性も含め2010年には内々で検討を開始しました。

既に看護学部を認可申請・開学し、看護分野の大学院を埼玉県内の病院の中に開設された、目白大学の当時の佐藤弘毅理事長を木元学長とともに訪問し、認可申請までの詳細な指導を受けることが出来ました。経験に基づく貴重なお話は医療分野のない本学にとってはとても大きな力となり、その後も折あるごとにご指導いただきました。

こんな中で13年前、日本私立大学協会の会議で、当時の日本赤十字秋田看護大学学長森美智子先生との奇跡的な出会いがありました。森先生の『看護師養成への熱意や明るくて積極的な生き方、思いのこもったお話』に吸い込まれながら、『人を支える教育を続けてきた東京家政大学として看護師養成領域がほしい』という本学の積年の思いを伝え続けたことが、今改めて走馬灯のように思い出されます。

森先生はご自宅もお近くのように駅前の稲荷山公園にお子さんたちと遊びに来られていて、駅近で広大な東京家政大学狭山キャンパスのこともご存じでした。森先生とたくさんお話をしている間に「私が入を探してあげる!!!」との声が出始め、看護学部開設準備室設置、学部長予定者選び、参加教員探しが開始し、看護学部誕生の礎となったのです。森美智子先生そして準備室を引き受けてくださった今留忍先生(初代看護学部長・健康科学部長、前副学長)・谷岸悦子先生・岩田みどり先生との出会いがなかったら東京家政大学に看護学部ができるのはもっと遅くなっていたと思います。

当時秋田にお住いの森先生が上京される度に、池袋西武デパートのレストランで食事をしながら人探しをしました。同窓会名簿から、この人を...と電話でお誘いくださったことは夢のようなことでした。助産分野教員として遠く離れた公立大でご活躍の現学部長の鈴木幹子先生との可能性が出てきたとわかった時は、「助産師課程が作れるかも!!!」と飛び上がった記憶があります。

日赤看護大学でなく国立大学ご出身ではありますが、人を通じての紹介で現看護学科長の山口佳子先生との出会いがありました。就任前の狭山キャンパス見学の折、地域と繋がる看護師・保健師養成への夢と期待を生き生きと語られていたことを、今も明瞭に覚えています。

森美智子先生は日赤看護大学・日赤看護短大の卒業生から多くの看護学科教員をご紹介くださいました。東京家政大学看護学部・看護学科の設立の偉大な功労者であり、何よりも熱意をもって教育することの必要性を伝えてくださいました。開設後から完成年度まで東京家政大学の教育顧問としてお力添えいただいたことも、後に引き継ぎたい大きなことです。

<認可申請での困難な日々を経て認可>

学内には看護学部開設に否定的な意見もあり、認可申請の日々の中で関係者の思いがまとまらないことが何より辛いことであつたと改めて思い出されます。

コロナ禍・コロナ後はメール対応が主ですが、申請業務開始の13年前は、文部科学省大学設置室の担当官は予約すれば何回も会ってもらえ、設置を通すために必要なことへの厳しいアドバイスがありました。定期券がいるのではと思うくらい虎ノ門に通い、特に医療系学部は大学設置室と共に医学教育課の指導を仰ぐ必要がありとても困難な日々で、多くの方の理解・協力の必要性や新たな出会いの大きさを身にしみて感じた認可申請業務でした。

今留・谷岸・岩井で通い詰めた医学教育課の女性担当者が、けなげに(?)頑張る私たち女性軍に理解を持ってくださったのか、審査委員会当日まで適切なアドバイスを出してくださったことが何よりの力でした。

助産師課程申請においては正常分娩を10例、経験する必要がありますが、申請に協力を得られる病院がなく、戸田中央医科グループ故中村隆俊会長のご理解で、無事、認可申請が通過し、助産師資格を取れることになったことも、皆さんに理解していただきたいことです。

面接審査の日の案内板の思い出の写真がありました。当日は、木元学長・今留学部長予定者・岩井担当理事が出向き、大学設置分科会の厳しい面接を受けました。

特に看護系大学委員からは「大学の学部では看護師養成のみを、助産師・保健師は大学院で養成するように」と強い説得があり、「他の申請大学は受け入れていますよ」との指導でした。



「東京家政大学だからこそ、生まれる前の胎児から学び(助産師課程)、高齢になっても地域で生活する人への支援を学ぶこと(保健師課程)は必要である」と私たち3人は訴え、認可前審査面接は予定時間を大幅に上回りました。

看護学部誕生には多くの幸運の神様に恵まれたのです。面接室に入室して初めて分かったことでしたが、なんと偶然でしたが、東京家政大学を以前から理解してくださっている方お二人が大学設置分科会委員の中に加わっていました。「東京家政大学はここまで堅実に教育し、専門職業人を輩出し続けている大学であること」を他の委員に力説してくださったことも、認可されることに大きく幸いました。

幸運の神様に守られながら、認可申請という苦難の日々を乗り越え、平成26年4月3日、晴れて狭山キャンパスに1期生を迎えることができ、ご尽力くださった方々に感謝申し上げます。東京家政大学に新設された看護学科の計画的でエネルギーあふれる学生育ては目を見張るものばかりでした。先生方のご努力は10年を経た今も脈々と継続され、「人に寄り添い支援できる看護師・保健師・助産師」をしっかり社会に輩出できていることに感謝し、これからもよろしく願いいたします。



祝 辞

常務理事、認可申請時学長 木元 幸一

看護学科の開設10周年おめでとうございます。

看護学科の開設は、本学にとって悲願と言っても良いもので、今の時代において本学の建学の精神である女性の自主自律を叶える職業の代表と捉えていました。看護師は、女性が社会で十分活躍でき、また本学の生活信条である“愛情・勤勉・聡明”を持って多様な多くの人々の心身の健康に貢献できる職業であるからです。森美智子当時赤十字系大学学長に、本学の教育に共感していただき、設立へのご指導とご協力を頂きました。また、大学院での資格取得が増加している助産師や保健師の資格が学部でも奇跡的に与えられたのは、本学栄養士養成課程における長年の実績とその卒業生が活躍する戸田中央医科グループが有するベッド数の多い満足する実習産院が中村隆俊当時会長の協力により確保できたことです。単に看護師養成の学校で済まされることなく大きな利点を有して開設できた事は大きな喜びでした。今思い返しても、本学の伝統と教育に共感してご指導ご支援頂いた方々に出会い、長年蓄積してきた本学卒業生の実績に恵まれて設立できた看護学科でした。そして、入口だけでなくその卒業後の出口も念頭に置き、他大学に負けない可能な教育機会を取り入れた万全の人材育成機関としてスタートできました。

開設後10年間その設立主旨を維持し、さらに高めることにご尽力いただいた実習先の病院の皆様および今留初代学部長始め学内関係者の方々には心よりの祝福と御礼を申し上げます。看護学部を含む健康科学部は、我が国における大学教育においてまだ歴史が浅く、他大学同様、教員の確保と教育の質を維持することが要の学部です。今後、研究所や大学院を設置し、時代の要請に応え、教育研究の幅を広げると共にその高度化を図ることが次の10年の目標です。ここまで来た歩みを止めず、さらに前進発展されることを真に切望しております。



看護学部開設時の思い出

日本赤十字秋田看護大学名誉学長、元東京家政大学教育顧問

森 美智子

東京家政大学看護学科開設10周年記念、おめでとうございます。光陰矢の如く感じられます。

子どもが幼い頃、車で10分以内の稲荷山公園へ遊びに連れて行き、公園と一体化した東京家政大学(家政大)のキャンパスは外国の広い大学のキャンパスを連想させ、日本赤十字武蔵野短大にいたので、羨ましく感じておりました。

当時、日本私立看護系大学協会の常務担当理事をしていた森に、岩井理事が狭山キャンパスに看護学部を開設したいと協力要請があり、でなければ、大学以外の施設になる可能性があると同じ、広義の意味で日本の大学の損失に当たると思い、即答した次第でした。しかし、それ以上に岩井理事の熱意とお人柄に感銘を受けたことが大きな要因でした。

準備室では、その任に当たっている谷岸先生を家政大の理事である岩井理事が支援され、昼夜を問わず作業されていました。時に、谷岸先生、岩井理事、今留先生に森が加わり、夜遅くまで作業したことが思い出されます。その頃は、看護学科開設が続き、文科省の対応も厳しく、審査の際、岩井理事はもとより木元学長も大変ご苦労されておられました。

今日、狭山キャンパスが存続できているのは、ひとえに岩井理事の並々ならぬご尽力の賜物と思います。そして、多くの関係者皆様の御努力の結果が、看護学部から健康科学部へと進展したと考えられます。家政大学の建学の精神を大切にされ、さらなる充実発展を祈念しております。



看護学科 10 周年に寄せて

常務理事、初代子ども学部長 岩田 力

2014年4月、狭山キャンパスに看護学部看護学科と子ども学部子ども支援学科が新たに開設されました。新1年生を迎え、改めて嬉しく、それまでの新学部開設に伴う苦労も忘れる瞬間でしたが、さらにこの集ってくれた学生を立派な職業人として送り出す責任を感じました。看護学科を造られた森先生、今留先生、そして学科の先生方もおそらく同じように思われたことでしょう。

その後リハビリテーション学科の新設に伴い看護学部は健康科学部へと発展し2学科体制となりましたが、少子高齢化という抗い難い流れの中、ますます看護の領域はその重要性を増しています。高齢化のみに眼が行きがちなフレーズですが、少子であるがゆえに、この世に生を受けた子どもたちがどのように健康な大人になっていくのかを支える分野としてもまた看護の領域は、子ども支援学科が担う保育者養成という役割とともに大変重い役割を担っています。

大学ホームページに示されますように、“生きる”をサポートするスペシャリストを養成する看護学科がますますその本領を発揮され、東京家政大学発の新しい看護学をも築いていかれますよう、祈念いたします。また狭山キャンパスは現在健康科学部と、名称を変えた子ども支援学部の2学部3学科の体制ですが、今後の新たな10年を目指し、お互いの特色を生かし且つ学問的な連携を実現できるものとして、発展されますよう願うところです。



看護学科、その過去・現在そして輝かしい未来へ！

名誉教授、東京家政大学附属女子中学校・高等学校統括責任者 兼
高等学校長、初代子ども支援学科長 大澤 力

『看護学科開設10周年』心よりおめでとうございます！時を同じくして立ち上げました子ども支援学科元学科長として、たいへん感慨深いものがございます。当時の文部科学省や学内関連の諸手続き・作業内容を振り返ります時、本当に大変な思いと時間と労力を駆使しての開設でした。一学部設立すると一人死ぬと言われましたが、誰も死なず二学部【看護学部・子ども学部】同時に、良き仲間の方々と手を組み、足掛け2年間で立ち上げました。

さらに、現在の看護学科を探ると『“人間”をみる、“人間”を看護する』看護職としてふさわしい人間性を養い、その上で高度な知識と技術、行動力と実践力を兼ね備え、職業的自律性を持った人材を育成しますとあります。看護師国家試験合格率100%、保健師国家試験合格率100%、助産師国家試験合格率100%と素晴らしい内容が図示され、白衣に身を包んで明るく微笑む4名の学生が映し出されております。

そして、看護学科の未来は明るく輝いて見えます。21世紀から22世紀の世の中へ。次なる時代にも建学の精神：自主自律、生活信条：愛情・勤勉・聡明に裏打ちされた素晴らしい看護教育が継続致しますこと間違いございません。更なる発展をお祈り致しております。



看護学科創設10周年をお祝い申し上げます

副学長、狭山学務部長、子ども支援学部長 宮島 祐

2014年4月に狭山キャンパスにおいて看護学科と子ども支援学科が誕生し、共に本年10周年を迎えることができましたことをお祝い申し上げます。

本大学には併設病院がない中、多数の各種医療機関での実習には看護学科全教員の方々が実習期間中毎日付き添われ、ご指導に当たっておられることの大変さには、ただただ平伏するのみです。そのような状況下でも、

第1期生から助産師国家試験100%合格、さらには2022年度には看護師、保健師、助産師の国家試験全てにおいて100%合格を達成されるなど輝かしい業績を上げてこられ、加えて東日本大震災被災者の方々に対する心のケアに学生と共に継続的に参加されていたり、狭山市・入間市など自治体等の行事に参加され、積極的に社会貢献されておられるなど、大学内での日常的な教育以外にも実地体験の場を数多く設けられておられることは学生教育の見本を示されておられると感じております。

現在の日本における少子化と高齢化社会、さらには地球上の異常気象による様々な災害など、人々の健康を守るうえで、看護学科で学ばれ、医療の専門家の一員として社会に羽ばたいていく看護学生さんたちの役割は益々重要となっています。その様な若者を立派に育ててこられた看護学科の皆様のご尽力に感謝申し上げますとともに、今後もさらなる発展をされていかれることを期待いたしております。



祝 辞

リハビリテーション学科教授、初代リハビリテーション学科長
清水 順市

看護学科開設 10 年を迎え、大変おめでとうございます。

私は東京家政大学という大学があるということは高校生の頃から知っておりました。しかし、どのような学部で構成されているかは全く知りませんでした。8年前に東京家政大学で作業療法士・理学療法士を養成する学科を作りたいので協力いただきたいと声がかかり、その時に看護学部が存在していることを初めて知りました。そして、2017年4月から大学準備室にお世話になりました。ところが、

6月になると看護学科で「疾病治療論Ⅱ」を担当されていた非常勤講師の先生が体調不良から講義継続ができないことになり、急遽、代理として途中から授業を引き継ぐことになりました。さらに後期科目として配置されていた「疾病治療論Ⅲ」も引き続き担当することになりました。授業内容は運動器疾患などリハビリテーション領域の対象となる疾患と重複していたことから、臨床で経験した事例を含めて授業を組み立てることができました。内容は、1年生にとっては少し難しい臨床のことを多く組み込んだのですが、期末試験では予想以上の点数を採ってくれて安心しました。

2018年4月からリハビリテーション学科開設に併せて、看護学部は健康科学部に改変され、2期生以降は健康科学部学生としてリハビリテーション学科の学生と歩むことになりました。私が担当した「リハビリテーション概論」は階段教室で授業を実施しましたが、学生は「リハビリテーション」に興味を示し、課題についてもきっちりと話し合いをしてくれたことを覚えています。このように看護学科の学生は学問まっしぐらに進んで歴史を創っていくものと期待しています。



教育·研究

【教育理念と3つのポリシー】

<教育理念>

看護学科の教育理念は、東京家政大学の建学の精神「自主自律」としての職業的自律性を礎として、生命の尊厳を守り、科学的根拠に裏付けされた知識・技術を用い、あらゆる年代における人々の健康の保持増進と生活の質の維持に貢献できる人材を育成することです。「愛情・勤勉・聡明」を生活信条とし、いのちの誕生から老い（死）まで、「その人らしく生活する」を支援するために、健康の保持増進と生活の質を維持する看護の実践を重視しています。

● 建学の精神「自主自律」

東京家政大学の起源は、東京女子師範学校で教鞭を執っていた渡邊辰五郎が、「女性に技を身につけ、その技を通して社会的自立を計り、時代の動向を見通していく創造性に富む女性を育てる」ことを目的として、1881（明治14）年に、本郷湯島に開設した裁縫私塾「和洋裁縫伝習所」です。当時は、“女子に花嫁修業的な習い事の教養は求められても学問は不要”という社会的風潮もあり、女子の就学率は男子の半分にも満たない状況でした。そうした時代にいち早く、辰五郎は女子たちに裁縫に関する知識や技術のみでなく、読み・書き・算術（算数）などの基礎的な学力を養い、女子の自立への力と意欲を育てる教育を実施しました。

本学は、校祖 渡邊辰五郎の「時代の要請に応え、民衆の必要を基盤とし、女性の自主自律を願い、新しい時代に即応した学問技芸に秀でた師表※となる有能な女性を育成する」という建学の理念を継承し実践してきました。女性の教養を最高度に高め、専門的知識・技能を養い、職能的訓練を施すとともに、実践的で責任を重んじ、勤労を好み、そして真に自由であって平和な民主的文化国家、社会の形成と運営に貢献できる女性の育成に努めることを使命としています。

※師表=師として人の模範や手本となること

● 生活信条「愛情・勤勉・聡明」

本学の生活信条である「愛情・勤勉・聡明」は、1951（昭和26）年の入学試験時に本学の学生が受験生に尽くす姿に感激した当時の学長 青木誠四郎が、本学の学風を基盤とし生活信条として表現したものです。この生活信条は、「自分を愛するがごとく他人をも愛さなければならぬ。しかし、ただ愛情を持っているだけでなく形にあらわし、相手に尽くす勤勉さがなければいけない。さらに、単なる勤勉ではなく物事を正しく判断する聡明さが必要である」と定めたものです。学生・教職員皆が、学校にいる時だけでなく、日々の生活に具現してほしいとの願いが込められています。

(<https://www.tokyo-kasei.ac.jp/about/history.html> 本学ホームページ「歴史と沿革」)

<ディプロマポリシー(DP)>

本学看護学科を卒業するまでに、以下の5つの能力を修得します。

1. 生命の尊厳と人格を尊重した看護の実践力
2. 健康の保持増進と生活の質を維持する看護の実践力
3. 保健医療福祉において多職種間および地域と協働・連携できる能力
4. 看護の探究心と研究的姿勢
5. 国際的視野から行動する力

これら 5 つの能力を「学力の 3 要素」でとらえると以下の 9 つになります。

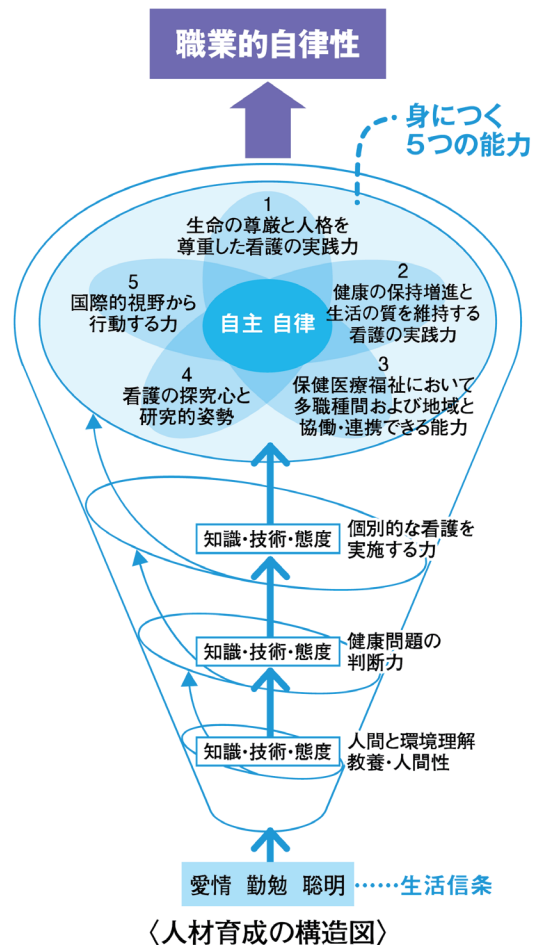
知識 技能	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間理解を基盤として、健康に関与する看護の基本を身につけている。 2. 援助的人間関係を基盤に人の誕生から老い（死）までの過程における健康課題に対して取り組むことができる。 3. 健康の保持増進、疾病予防、健康障害からの回復に向けた看護が、専門的知識・技術を用いて、科学的根拠に基づき実施できる。
思考力 判断力 表現力	<ol style="list-style-type: none"> 4. 看護の対象である人を身体的・精神的・社会的な側面を統合して理解する基礎力を身につけている。 5. 人の自由と権利を尊重し、いかなる場合でも看護職者としての役割を倫理的に判断し、行動できる。 6. “看護”を意識的に問い続け、自ら発見した看護に関する課題に対して研究的に取り組み、看護の現象を科学的に追求する姿勢を継続できる。
主体性 多様性 協同性	<ol style="list-style-type: none"> 7. 看護の対象である人を思いやる人間性をもち、社会と積極的に関わっていく高いコミュニケーション能力を身につけている。 8. 質の高い医療の提供に向って地域等の様々な資源を活用するとともに、患者・家族を取り巻く多職種間を調整する役割を果たすことができる基礎力を有している。 9. 諸外国の医療・看護の課題、看護事情に関心をもち、専門職者として国内外で活躍するための基礎力を有している。

<カリキュラムポリシー(CP)>

本学看護学科が掲げるディプロマポリシーを修得し、看護師、助産師、保健師の国家試験受験資格を取得するために、「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」（以下、指定規則）に準じてカリキュラムを編成しています。

いのちの誕生から老いまで、あらゆる年代の人々が住み慣れた地域で「その人らしく生活する」を支援するために、病気をみる「医療」の視点と、生きていく営みである「生活」の視点の両方から、健康の保持増進と生活の質を維持する看護実践力を有する専門職者を育成し、保健医療福祉の発展と向上に貢献できるよう、各年次において段階を追った講義・演習・実習科目を配置します。

本学看護学科は、以下の通り、これまでに 2 度のカリキュラム改正を行っています。（詳細は巻末の資料をご参照ください。）



● 2014～2017(平成26～29)年度入学生:1～4期生のカリキュラム

知識・技術・態度を学修し看護実践の能力を身につけられるように、授業科目を〔基礎教養科目〕と〔専門教育科目〕に区分し、さらに〔専門教育科目〕を〔専門基礎科目〕と〔専門科目〕に区分して科目を編成しました。

■ 基礎教養科目：人間をさまざまな視点から理解し、科学的、かつ、看護の対象者の自由と権利を尊重した看護が実践できる力を身につけるために、看護の対象としての人間について全体論的理解を深める科目です。看護の対象である人間を取り巻く環境に焦点を当て、〔人間と社会・文化〕〔人間と自然〕〔人間と情報〕〔人間と言語〕に区分しました。

■ 専門教育科目：健康の保持増進と生活の質を維持する看護の実践に必要な知識・技術・態度および看護の専門性を深化させる科目です。専門基礎および基礎・母性・小児・成人・老年・精神・在宅・公衆衛生・助産の各看護学領域の講義・演習・実習を、学修の進行に合わせて配置しました。

* 専門基礎科目：看護学領域の学修の基盤として、人間の心身のメカニズム、健康を維持・増進させるための保健医療福祉のしくみを理解する科目です。科学的根拠に裏づけられた看護実践能力が身につくよう、〔身体の構造〕〔精神の構造〕〔社会の構造〕で構成しました。

* 専門科目：〔看護の基礎〕〔母性看護学〕〔小児看護学〕〔成人看護学〕〔老年看護学〕〔在宅看護学〕〔精神看護学〕〔看護の統合と実践〕に区分しました。この他に保健師課程科目として〔公衆衛生看護学〕、助産師課程科目として〔助産学〕があります。

・ 臨地実習：看護の実践に必要な知識・技術・態度を統合して行います。対象者および対象者を取り巻くさまざまな人々や関係機関等と良好な関係を築きながら、対象者が望む生き方ができるように、創意工夫した看護援助を提供できる力を身につけます。

・ 看護の統合と実践：“看護とは”を問い、自己の看護観を明確にすることや、質の高い看護を提供するためにどうあるべきかなど、将来に向けてビジョンが広がることをねらい、看護実践能力の修得を図るために、「統合実習」や「看護研究」など、統合の要素をクローズアップする科目や4年間の実習での内容を発展させる科目を通して、看護学の集大成を図ります。

● 2018～2021(平成30～令和3)年度入学生:5～8期生のカリキュラム

2017(平成29)年度に完成年度を迎えることから、健康科学部への改組や社会情勢の変化を踏まえて開設当初のカリキュラムを検証し、充実を図るためにカリキュラム改正を行いました。看護学生としての意識や学修意欲を早期から高めることを目的に、「救急看護法」と「災害看護」の開講時期を4年次から1年次に変更しました。また、専門科目の学修内容をわかりやすくするため、領域別に設定している「〇〇の特性と看護Ⅰ」を「〇〇看護学概論」に、「〇〇の特性と看護Ⅱ」を「〇〇看護方法論」に科目名を変更しました。学修内容が重複する科目を統廃合し、卒業必要単位数を増やさずに新たな授業科目を設定しました。

● 2022(令和4)年度以降入学生:9期生以降のカリキュラム

2020(令和2)年の指定規則改正では、療養する人々の生活の場の多様化、疾病や健康の概念の変化により、対象を生活者としてとらえて看護を提供する重要性が明確化されました。本学看護学科では、開設当初から、あらゆる年代の人々が『その人らしく生活する』を支援する看護の実践力を育成してきましたが、これをさらに強化するため、以下のカリキュラム

ポリシーに基づいて授業を編成しました。

■ 基礎教養科目：幅広く深い視野と判断力を培い、豊かな人間性を涵養することをめざして、[コア科目][人間と社会・文化][人間と自然][人間と情報][人間と言語]の各区分に科目を配置しました。コア科目には、建学の精神「自主自律」を醸成し、学びの基盤を形成するための「スタートアップセミナー自主自律」を新設しました。また、生涯にわたるキャリア発達を促すための「キャリアデザイン」を新設しました。

■ 専門教育科目：専門基礎科目と専門科目、保健師課程科目、助産師課程科目の区分を継続しています。

*専門基礎科目：従来の3区分を変更して[心身の構造と機能・疾病からの回復]と[社会の構造と機能]とし、臨床判断能力の基盤となる医学的知識を修得するための科目と、健康を維持・増進させるための保健医療福祉に関する知識を修得するための科目を配置しました。

*専門科目：誕生から老い(死)まで、あらゆる年代の人々が住み慣れた地域で「その人らしく生活し、その人らしく生を全うできる」を支えるために、個のケアと地域包括ケアに必要な知識・技術、高い倫理観(態度)を修得するための科目を系統的に配置しました。

・臨地実習：看護の対象者が生活者であること、健康・生活・地域が相互に関連しあっていることを実感できるよう、早期体験実習として1年次に「健康・生活・地域実習」を新設しました。3年次に行う領域別実習は、科学的根拠に基づいた個別的な看護の実践力、地域において看護職者として主体的に多職種と連携・協働し、看護の対象者を包括的に支援できる基礎的能力が身につく学修内容で組み立てました。

・看護の統合と実践：看護専門職者としての専門性の深化と建学の精神「自主自律」に基づく職業的自律への認識を高めることをねらいとし、“看護とは”を常に問い追究し続ける姿勢、将来、臨床現場や地域のリーダーとして「その人らしく生活する」を支える看護を主導する能力、国際的な視野等、看護の集大成の要素をクローズアップする科目やこれまでの実習での内容を補完する科目で構成しました。

<アドミッションポリシー(AP)>

本学看護学科では、DPとして掲げた5つの能力を4年間で修得することにより、いのちの誕生から老いまで、あらゆる年代の人々が「その人らしく生活する」を支える看護実践力を持つ看護専門職を育成しています。そのため、「アドミッションポリシー」(AP)として、以下に示す3つの要素を兼ね備えた学生を積極的に受け入れています。

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 看護学を学ぶために必要な国語・数学・英語・理科(生物・化学)の基礎学力を有している 対人関係を築くために、積極的かつ柔軟にコミュニケーションができる
思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> 自律的な思考に基づき、意思決定し、行動することができる 目的や課題を明らかにし、課題の解決に向けて取り組むことができる 他者の価値観を尊重し、意見の違いや立場の違いを理解できる 相手の意見を丁寧に聴き、自分の意見をわかりやすく表現できる
主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	<ul style="list-style-type: none"> 看護に強い興味・関心があり、主体的に看護を学ぶ意欲がある 健康的な生活習慣を身に付け、ストレスへの適切な対応行動がとれる 前に踏み出す勇気をもって物事に進んで取り組むことができる 何事も粘り強く継続的に取り組むことができる 多様な人々と積極的に関わり、協働することができる

【オープンキャンパス】

本学看護学科のDPやCPを理解し、APの要素を兼ね備えた方に入学していただくため、看護学科では「オープンキャンパス係」の教員がアドミッションセンターと協働し、オープンキャンパス、体験入学、進路相談会等の企画・運営を行っています。

狭山におけるオープンキャンパスでは、教員による模擬授業や個別相談、在校生との交流、実習室や図書館、学生食堂等をめぐるキャンパスツアー等を行っています。教員と在校生によるきめ細かく丁寧な対応は好評で、毎回、多くの方々にご参加いただいています。

オープンキャンパス以外にも、高校単位で狭山キャンパスにお越しいただき、実際の授業に参加したり模擬授業で基礎看護技術の演習を体験したり、学科説明やキャンパスツアー等を行ったりする「体験入学」も実施しています。また、高校に出向いて行う「出張講義」、埼玉県看護協会主催の「看護への道」進路相談会での個別相談、オンラインによる個別相談等も行っています。



【広 報】

「広報・ホームページ係」の教員が、看護学科の公式ホームページやInstagramで最新情報を発信しています。ぜひご覧ください。



学科HP



Instagram

2022（令和4）年には、在校生や狭山キャンパス教職員の協力を得て、学科紹介の動画を作成しました。学科ホームページで公開しているものの他に、オープンキャンパス来校者限定でご覧いただける動画があります。

【入 学 者】

本学看護学科の定員は100人です。学科開設以来、常に定員を上回る入学者を迎えることができ、10年間で1,093人が入学しました。

東京家政大学看護学科 入学者の推移

年 度	入学者数(人)
2014（平成26）	110
2015（平成27）	107
2016（平成28）	113
2017（平成29）	102
2018（平成30）	116
2019（平成31・令和元）	107
2020（令和2）	102
2021（令和3）	112
2022（令和4）	110
2023（令和5）	114



【教育の特色】

<看護学科の学びの特色>

1. 「看護とは」を追究する姿勢の育成

4年間かけて、「看護とは」探しの旅をし、その時々で見つけた「看護とは」を自分の言葉で表現します。卒業後も、よりよい看護を実現するために「看護とは」を問い続ける素地を育みます。

2. 「看護は“人間”をみる、“人間”を看護する」を重視した看護教育

人間をみるとは、その人の思いを感じることです。近代看護の祖ナイチンゲールの示唆「病気の看護ではなく、病人の看護というところに注意してほしい」を基盤に、看護の学修を進めます。

3. その人らしく「生活する」を支援する看護実践

臨地実習を通して、誕生から老いまであらゆる年代の人々が、住み慣れた地域で、より健康に安心してその人らしく「生活する」を支援する看護の実践力を修得します。

4. 他学科との共通開講科目による多職種連携・協働意識の醸成

健康科学部リハビリテーション学科との共通開講科目を設定し、日々の学修の中で、学科を超えて交流し合えるようにしています。看護、作業療法、理学療法、それぞれの専門性を生かし、互いに連携・補完し合う意識を育みます。2024（令和6）年度からは、子ども支援学科を含む狭山キャンパス3学科共通で自校教育を開講することにより、保健医療分野のみならず福祉分野を含む多職種と連携・協働するための意識を養います。

5. 医療・ケアと生活の一本化に対応した教育環境

キャンパス内には保育所、放課後等デイサービス、産後ケアサロンがあり、実習施設として利用しています。住み慣れた地域における生活を支援する看護について学べます。

6. 「救急看護法」「災害看護」の知識・技術を磨く教育・研修プログラム

1年次から「救急看護法」や「災害看護」について学ぶことにより、医療人としての自覚と学修意欲の向上を図っています。

【救急看護法】

「救急看護法」の授業は、学科開設当初は4年次選択科目でしたが、2018（平成30）年度からは1年次選択科目に変更しています。また、課外活動として、日本赤十字社指導員による基礎救急法講習会を、2014（平成26）年度は希望者を対象に、2015～2019（平成27～31）年度は導入教育の一環として1年生全員を対象に実施しました。2020、2021（令和2、3）年度はコロナ禍で中止となり、2022（令和4）年度以降は、「救急看護法」の授業の一環として、消防署や学内で演習を行っています。

【災害看護】

「災害看護」は、災害時の医療・看護活動および被害を最小限にする自助・共助・公助の力を引き出す看護を学ぶ科目です。1年次必修科目の「災害看護Ⅰ」では、災害と健康、災害看護活動、看護職の役割などを講義・グループ討議・机上シミュレーションで学修します。4年次選択科目の「災害看護Ⅱ」では、事例や場面を想定して「災害看護」を実践的に学修します。

<看護師課程・助産師課程・保健師課程>

本学看護学科では、卒業要件を満たすことにより、すべての学生が看護師の国家試験受験資格を得られます。さらに、4年次に助産師課程または保健師課程を履修することにより、助産師または保健師の国家試験受験資格も得られます。

助産師課程または保健師課程を履修するためには、看護師課程に必要な科目に加えて、3年次に開講される助産師課程または保健師課程の必修科目（看護師課程の選択科目）の単位を修得した上で、3年次末に行われる選抜試験に合格する必要があります。これは、助産師または保健師に求められる能力について理解を深めるとともに、3年次5～12月に行われる看護師課程の領域別実習を通して適性や能力、学修意欲を見極めた上で、最適な進路を決められるようにするものです。定員は助産師課程10名以内、保健師課程20名以内です。助産師課程と保健師課程を両方履修することはできません。

選抜試験合格者は、4年次に看護師課程の科目と並行して助産師課程または保健師課程の講義・演習科目や実習科目の単位を修得します。4年次2月に行われる看護師、助産師、保健師の国家試験を受験し、合格することで看護師、助産師、保健師の国家資格を取得します。なお、助産師資格を得るためには看護師国家試験と助産師国家試験、保健師資格を得るためには看護師国家試験と保健師国家試験に合格する必要があります。

<臨地実習>

看護基礎教育において、臨地実習は重要な位置を占めています。臨地実習の目的は、学内で修得した看護に必要な専門知識・技術・態度を実際の場面で統合し、健康の保持増進と生活の質を維持する看護が展開できる能力を身につけることです。学内での講義や演習とは異なり、臨地実習では、実際に生活し看護を必要としている対象者と関わります。対象者の健康問題を解決するためには、学生が主体的に考え、行動しなければなりません。そのためには、講義や演習で学んだ知識や技術を対象者の個別性に応じて具体的に活用すること、看護職同士だけでなく保健医療福祉における多職種や地域と協働・連携することが必要です。また、看護の基盤となる人間関係や信頼関係を築くことが重要です。自分が行った看護を評価・修正することで自らの課題を見出し、解決に取り組むことの積み重ねが、知識・技術の向上と人間的な成長につながります。臨地実習を通して、豊かな人間性と倫理観を培い、社会のニーズにこたえる看護を創造し、生涯成長し続けるための職業的自律を育てています。

● 実習スケジュール

1年次から段階的に実習を行うことで、看護の実践に必要な能力を育てています。

2022（令和4）年度以降入学生カリキュラムの実習は以下の通りです。

1年次	2年次	3年次	4年次
健康・生活・地域実習 基礎看護の実践Ⅰ	基礎看護の実践Ⅱ	母性看護の実践 小児看護の実践 成人看護の実践 老年看護の実践 精神看護の実践 地域・在宅看護の実践	看護師課程：統合実習 助産師課程：助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 保健師課程：公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ

■ 1 年次

看護学科に入学して初めての実習「健康・生活・地域実習」は、7～8月に1週間かけて行います。狭山キャンパス内にある「かせい森の産後ケアサロン」、老人福祉センターや精神障がい者の通所施設など、さまざまな実習施設に出向いて利用者や職員の方々とコミュニケーションをとったり、実習施設周辺を歩いて地域の特徴をつかんだりして、「地域でその人らしく生活するとは」を考えます。

1月には1週間の「基礎看護の実践Ⅰ」を行い、病棟で患者とコミュニケーションをとり、看護師とともに日常生活の援助を実施します。患者や看護師の方々との関わりを通して、学内で学んできたことの意味を実感し、学内だけでは得られない学びを深めます。

■ 2 年次

2～3月に病院で患者を受け持ち、2週間の「基礎看護の実践Ⅱ」を実施します。講義で学んだ看護過程の知識と看護の本質を包括的に再編成し、看護のプロセスを学修します。また、患者との関わりやケアの実施を通して、自分の看護に対する考えを深めます。

■ 3 年次

5～7月と9～12月に、領域別実習として「母性看護の実践」を2週間、「小児看護の実践」を2週間、「成人看護の実践」を4週間、「老年看護の実践」を3週間、「精神看護の実践」を3週間、「地域・在宅看護の実践」を2週間、ローテーションで行います。あらゆる年代の人々に対して、生活の場に応じた健康の保持増進と生活の質を維持する看護の実践力を養います。実習施設は、病院をはじめ、福祉施設、保健施設、訪問看護ステーション、保育所など多岐にわたります。

■ 4 年次

★ 看護師課程

5月に3週間の「統合実習」を実施します。看護学の集大成として、3年次の領域別実習で培った科学的根拠に裏づけられた看護実践力のさらなる向上を図り、自分の目指す看護を明確にします。複数患者を受け持つ看護、夜間帯の看護、チーム医療における看護、クリティカルケア、成人期リハビリテーション看護、緩和ケア、地域精神保健福祉医療施設や精神科救急における看護、地域包括ケアシステムにおける看護の中から、各学生が学びを深めたいテーマを選択して実習します。

★ 助産師課程

4年次に3科目約11週間の助産学実習を行います。助産学実習Ⅰは、産科の外来や病棟で、妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族に対する助産過程を展開し、助産の実践に必要な知識と技術を修得します。正常産の助産診断と分娩介助を10例程度実施します。助産学実習Ⅱは、妊娠期（または分娩期）から分娩後1か月までの母子を継続して受け持ちます。助産学実習Ⅲでは、産科病棟と助産所で助産業務と管理方法の実際を学びます。

★ 保健師課程

4年次に2科目5週間の公衆衛生看護学実習を行います。公衆衛生看護学実習Ⅰは、市町村保健センターで乳幼児健康診査をはじめとする各種保健事業への参加や保健師との同行訪問などを行い、地域における健康課題や市町村保健センターと市町村保健師の役割・機能について学び、公衆衛生看護活動の展開に必要な視点や態度、基礎的な技術を修得します。公衆衛生看護学実習Ⅱでは、保健所実習、学校保健学実習、産業保健学実習を行います。

● 主な実習施設

(2024年度以降受入予定施設を含む。五十音順)

施設種別	実習施設名	実習科目名
医療機関	芥川バースクリニック、大泉病院、公立福生病院、国立障害者リハビリテーションセンター病院、小平中央リハビリテーション病院、埼玉石心会病院、埼玉病院、榊原記念病院、三恵病院、順天堂大学医学部附属練間病院、市立青梅総合医療センター、新所沢清和病院、TMGあさか医療センター、東海大学医学部附属病院、東京通信病院、東京都済生会中央病院、東京都立北療育医療センター、所沢中央病院、所沢ロイヤル病院、戸田中央産院、並木病院、成増厚生病院、西埼玉中央病院、西東京中央総合病院、練馬総合病院、武蔵野赤十字病院、武蔵野中央病院 等	健康・生活・地域実習 基礎看護の実践ⅠⅡ 成人看護の実践 老年看護の実践 母性看護の実践 小児看護の実践 精神看護の実践 統合実習 助産学実習ⅠⅡⅢ
助産院等	あかり助産院、えのきど母乳育児相談室、かえる助産院母乳育児相談室、かせい森の産後ケアサロン、吉祥寺ふわまる助産院、助産院もりあね	健康・生活・地域実習 母性看護の実践 統合実習
保育所	加賀保育園、かせい森のおうち、保育園加賀のこども	小児看護の実践
放課後等 デイサービス	かせい森の放課後等デイサービスつくし	健康・生活・地域実習
介護老人 保健施設	グリーンビレッジ朝霞台、所沢ロイヤルの丘、遊、雪見野ケアセンター	老年看護の実践
地域包括支援 センター	入間市地域包括支援センター、北区高齢者あんしんセンター、狭山市地域包括支援センター	統合実習
老人福祉 センター	入間市老人福祉センター やまゆり荘、狭山市老人福祉センター 寿荘、宝荘、不老荘	健康・生活・地域実習 統合実習
訪問看護 ステーション	梅の園訪問看護ステーション、うららー、LE在宅・施設 訪問看護・リハビリステーション、かなでケアステーション、佐ター、新所沢清和病院一、TMG宗岡一、所沢リハビリテーション病院一、にこにこ一、練馬区医師会一、一橋病院一、一あおば、一芝久保、一たんぼぼ、一つくし、一ひばり、一りすたーと、みなみだい一、よしかわ訪問看護ステーション歩 等	地域・在宅看護の実践 精神看護の実践
就労継続支援 B型事業所	創和ユニット、満天工房、リバーサイド、ルッカ	健康・生活・地域実習 精神看護の実践 統合実習
地域生活支援センター 地域活動支援センター	スペースきずな こぶしの家	統合実習
市町村保健センター	入間市、川越市、狭山市、所沢市、飯能市、ふじみ野市、三芳町 等	公衆衛生看護学実習Ⅰ
保健所	川越市保健所、埼玉県朝霞・坂戸・狭山・秩父保健所 等	公衆衛生看護学実習Ⅱ
企業	海上ビル診療所、読売不動産株式会社	
学校	東京家政大学附属女子中学校・高等学校	統合実習
その他	暮らしの保健室、坂町ミモザの家、日本家族計画協会、所沢市男女共同参画推進センターふらっと 等	

本学看護学科は、附属病院を持たないことから、複数の医療機関で実習を行っています。医療機関ごとに所在地や設立主体、規模、機能、理念などが異なり、患者やスタッフの特性も異なります。また、地域でその人らしく生活することを支援する看護の実践力を高めるため、医療機関以外にも多種多様な施設で実習を行っています。看護の学びの幅が広がるとともに、自分の関心や特性にあった就職先を選ぶヒントも得られます。

看護学科教員は、実習開始前に実習施設の臨地実習指導者や看護管理者と打ち合わせを行い、実習方針、内容、学生配置、受け持ち患者の選定、指導体制、安全対策などを検討し、実習担当教員と臨地実習指導者との役割分担や連携について確認しています。実習期間中は実習施設で臨地実習指導者と連携・協働し、学生個々の学修状況に応じた指導を行っています。実習終了後は、臨地実習指導者や看護管理者に実習成績や学修状況を報告し、課題や改善策について検討することにより、次年度の実習指導に反映させています。

こうしたきめ細かな実習指導を可能にするため、本学看護学科では国の配置基準を上回る数の教員を配置しています。さらに、2020（令和2）年度からは、もっぱら実習指導に従事する専任教員「看護臨床講師」制度を導入し、実習指導体制を強化しています。

2020年以降は新型コロナウイルスの感染拡大により、現地実習の中止が相次ぎましたが、実習施設の協力を得ながら各領域で創意工夫を凝らし、学内やオンラインで代替実習を行いました。

【臨地実習検討部会】

臨地実習検討部会は、学科長を部会長とし、各領域の教員をメンバーとしています。臨地実習が効果的に展開できるよう、全領域の実習に関わる「共通要項」「健康チェック表」の改訂・発行、次年度実習スケジュールの調整、1年次共通オリエンテーション、4年次「統合実習」の要項作成やオリエンテーション、実習指導に関わる情報共有などを行っています。

【保健係】

本学看護学科では、入学時健康診断で、麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・B型肝炎の5種の感染症について抗体価検査を行っています。保健係は、抗体価管理手帳を作成・配布し、活用を促すことにより、臨地実習で求められる各種感染症のワクチン接種歴と抗体価検査結果を管理し、必要に応じて追加のワクチン接種を受けるよう推奨するとともに、学生自身の健康管理に役立てるようにしています。

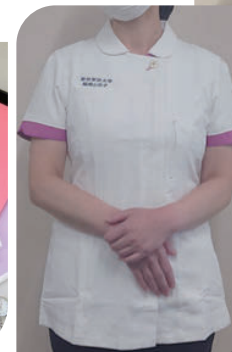
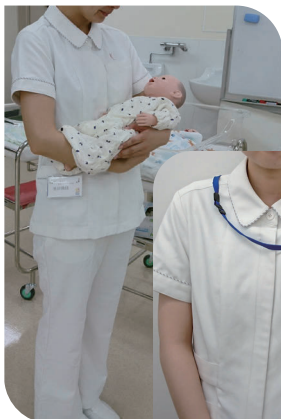
【実習用ユニフォーム】

開設当初のユニフォームは、上下白のパンツスタイル。丸襟と袖、左右ポケットにグレーと白の斜めストライプ柄のパイピングテープが施され、左胸にピンク色でKマークが刺繍されていました。しかし、上下白のユニフォームは実習施設の看護師と間違われやすいため、2017（平成29）年度入学の4期生からユニフォームを変更しました。

2代目のユニフォームは、上はピンクと白の千鳥格子柄に白いロールカラーと白い袖、左袖には本学のKマークがピンク色で刺繍されていました。下は引き続き白のパンツでした。

渡辺学園創立140周年を機にKマークが新しくなったこと、白いパンツは汚れが目立つことなどから、臨地実習検討部会員の発案で、2024（令和6）年度入学の11期生からユニフォームを変更することになりました。病院以外の実習でも着用できるようにパンツは紺色とし、実習施設の職員や他校の実習生と間違われないこと、機能性や価格を考慮して、臨地実習検討部会で候補を選定し、看護学科の科内会議で2点に絞り込みました。この2点について看護学科1～4年生402名にアンケートを行い、回答者307名中207名（67.4%）が支持したデザインを、科内会議で承認して3代目に決定しました。下は紺、上は

白で丸襟、袖口や襟もとにライラックピンクが用いられ、本学の新しいKマークをイメージさせる色づかいになりました。



【東京家政大学のKマーク】

本学には、家政（Kasei）の頭文字である「K」をデザイン化したシンボルマークがあります。看護学科では開設当初から実習用のユニフォームやバッグ、実習要項などに用いてきました。

2021（令和3）年に渡辺学園創立140周年を記念して新たに作成されたKマークは、スクールカラーのコバルトブルーを基調にしたものです。赤く右上に伸びるラインは学生・生徒・園児を象徴し、直線部分は渡辺学園の教職員を表しています。その下で経営陣が教職員と共に学生・生徒・園児の未来を支えています。「女性の自主自律を願い、新しい時代に即応した有能な女性を育成する」ことを目的とする本学の女性像を表現しています。



<各看護学領域の教育／看護学科における医学教育>

● 基礎看護学領域の教育

基礎看護学領域 教授 谷岸 悦子

本学看護学科の教育理念「その人らしい生命と生活の営みを支え、その人らしく生を全うできるよう支援するための看護の実践力を育む」ことを目指して授業を展開しています。基礎看護学は、専門職としての看護職者に必要な能力を身につけるための土台となり柱となり屋根となり、それらを繋ぎ、対象者に合った看護を創造し実践することを学ぶ領域です。科目は4年間の全学年に配置されています。3年次は看護学領域別の実習が主となり、学生は看護場面に身をおき、看護の対象者と対峙し実践を積みながら考え、悩み、多くの学びを得て、成長します。学生が「その人らしく生を全うできるよう支援する看護の実践力」を身につけてきたことを基礎看護学の教員が実感するのは、4年次の「統合実習」と「看護研究Ⅱ」の場です。教員にとって嬉しい瞬間です。学生とともに看護について議論できる時です。

基礎看護学で大事にしているのは、1年次から「看護とは何か」を探求することです。自分が考える看護を言葉にして、グループで意見交換し、検討した結果をクラス全体へ発表し、他者へ伝えること、異なった意見を聴き、考えを深めます。看護技術演習では、看護師役、患者役、観察者をおき、看護を受ける患者の視点からもその人が必要とする看護ができたかを評価し、よりよい看護とは何かを考えます。これらの学修過程から看護（学）の広がり・深さ、人と関わる意味や楽しさ等を理解できるように心がけています。学生のレディネスや思い、気づきを尊重して、学生と教員が一緒に「その人にとっての看護は何か」を考え、看護技術の向上に向けた自分の課題を明らかにして、次の段階に進む支援に努めています。

● 母性看護学・助産学領域の教育

母性看護学・助産学領域 教授 鈴木 幹子

母性看護学・助産学領域は、教授1名、准教授2名、講師2名、助教1名の6名体制で、母性看護学と助産学を担当しています。3年生の周産期実習では産後の母子ケアと保健指導を実施し、ウィメンズヘルス実習では女性の健康への援助を国際的な視点で学んでいます。入学生の約3割が助産師を希望していますが、選抜試験に合格した4年生が助産師課程に進んでいます。助産学生は、約10例の分娩介助をするため、7～12月まで夏期休暇中も実習です。教員は、学生が1例1例を大切に産婦の思いを受けとめ、専門職としての態度や姿勢を身につけられるように指導しています。受け持ちを承諾してくださった産婦とご家族、産婦の力を引き出す援助を丁寧に教えてくださる指導者の皆様には、謹んで感謝申し上げます。お陰様で助産師国家試験合格率は、1期生から100%です。

2019年、狭山校舎内に産後ケアサロンを開設できました。岩井理事、今留先生、岩田力先生にはご尽力を賜りました。PRで専属助産師の川杉先生と周辺地域を回ったことが思いだされます。法人開設の助産院として埼玉県から認可を受け、入間市、所沢市、三芳町等と提携し、城戸先生とデイサービスを提供しています。本学科の実習施設でもあり、令和2年度看護学教育評価では、看護の実践と教育を結び、かつ地域貢献していると高い評価をいただきました。

今後も母子や女性を取り巻く課題に向き合い、健康的に「その人らしく」自己決定できる支援についての教育をしていく所存です。

● 小児看護学領域の教育

小児看護学領域 教授 岩田 みどり

小児看護学領域では「小児看護学概論」「小児看護方法論」「小児看護の実践」「統合実習」「看護研究Ⅱ」などの科目を担当しています。主な授業目的は、乳児期から思春期の子どもと家族を理解し、発達に応じた生活の支援や健康問題の予防、治療・療養に必要な看護および子どもの人権に配慮した看護を学ぶことです。特に、看護の役割における倫理的規範と、人生のスタートにある子どもの命と尊厳を考え、子どもの安全・安心を守ること、さらに子どもと家族を全体的に捉えることを大切にしています。最近、子どもとの関係が少ない学生も多いため、学生自身の個別性も考慮して過度な緊張を持たせない教育をするように授業の工夫を行っています。

例えば、授業・演習の際には子どもと家族の事例を取り入れ、状況をイメージできる工夫や、技術演習では、現在病院で使用している小児用の機器やモデル人形等を活用して、6～8名に対して1名の教員が、個々の能力や経験に応じた指導を行い、実習への不安を緩和するようにしています。また、プレパレーション（説明の工夫）ではパンフレット作りの課題や、子どもの看護過程ではジグソー法を取り入れて仲間と話し合い協力した楽しい学修も大切にしています。

実習施設は入院施設と保育所を利用しますが、学生たちが慣れない環境でも緊張・不安が少なくなるように丁寧なオリエンテーションを行い、実践中のサポートや臨地実習指導者との協力を大事にしています。今後も実習に行く学生の心理を考え、manaba（学修支援システム）を利用した連絡や、子どもの行動とその心理を考慮した実践と小児看護の特性を考察できるよう、学生を支援していきたいと考えます。そのためにも引続き、教員としての研鑽と、将来も信頼される看護師の養成を目指していきます。

● 成人看護学領域の教育

成人看護学領域 教授 安達 祐子

成人看護学領域では、成人期にある人の急性期から慢性期までの幅広い看護を学びます。

1年次の「成人看護概論」では、成人期にある人の発達課題や身体的・心理的・社会的特徴、健康問題に対する看護アプローチ、看護に有用な理論について学修していきます。2年次の「成人看護方法論Ⅰ」（慢性期看護）、「成人看護方法論Ⅱ」（急性期看護）では、健康問題をもつ人々や家族に対する看護の講義と併せて、紙面患者を用いてアセスメントから計画立案までを行い、分析力や根拠に基づく思考力を修得します。さらに演習では血糖測定、術直後の観察などの臨床実践に必要な看護技術を身につけます。3年次の「成人看護の実践」（4週間の臨地実習）では、周術期、回復期、慢性期、終末期のいずれかの患者を2～3例受け持ち、1～2年次に学んだ知識と技術を統合しながら看護過程を用いて、患者や家族に個別性のある援助を行うことで看護の実践力を身に付けていきます。4年次の「統合実習」（3週間）では、クリティカルケア、成人期リハビリテーション、緩和ケアという専門性の高い看護実践の場で、対象者がもつ健康課題を把握し、患者との1対1の関係にとどまらず、看護スタッフや多職種チームとともにチームの一員として科学的根拠に裏付けられた看護を実践していきます。

また、「看護研究Ⅱ」のゼミでは、これまでの実習における興味・関心、看護に関する疑問や問題意識を課題として取り組み、研究的姿勢や看護に対する学びを深めていきます。

このように4年間を通して、看護の実践力や研究する力を培っていきます。

● 老年看護学領域の教育

老年看護学領域 教授 根岸 貴子

人生最期のステージにある老年期をどのように生きていただくか、老年看護学の果たす役割は大きいものです。加齢現象とともに病を持ち生きる人々をどのように支えていくか、その人の生にいかに関与できるか、模索しながら教育にあたってきました。実習では関わる高齢者の方が大切にされているという感覚を持っていただくために、人としてしっかり向き合うことから始めます。温かい目線や尊重した態度から醸し出される言葉かけにより、「あなたから大切にされている」という感覚を持っていただくための関わり方を工夫してきました。さらに高齢者と真摯に向き合い、その人のライフヒストリー全体を概観して関わるようにしてきました。高齢者の場合、病や加齢現象からどうしても虚弱、ケア度が高いという目線になりがちです。まずはその人の持てる力に注目し、状況を肯定的にとらえることが大切です。高齢者のとらえ方をポジティブに変化させることにより、言葉かけ、関わり方が変化してきます。そして、その人の疾患、症状が複雑で顕著な症状を呈しない場合においても、高齢者のおかれている状況を分析し、その人全体として生活史を含め理解することが大切です。人生最期のステージを、その人らしく生きるために支援するには、その人を知りたいという思いから始まることを強調したいと思います。学生たちの優しい心と看護を学びたいという思いが一つになり、関わる高齢者が生き生きとなる光景は、老年看護のめざすところです。その人の力に注目する老年看護をこれからも大切にしていきたいと思います。

● 精神看護学領域の教育

精神看護学領域 教授 伊関 敏男

精神看護学領域では、精神疾患を抱えているひとのみならずそのご家族、こころの問題を抱えやすい未病のひとたちの諸問題、およびその支援のあり方について以下のように教授しています。

まず、2年次には、看護師必修科目として「ノーマライゼーション」「精神看護学概論」「精神看護方法論」を開講しています。「ノーマライゼーション」では、障害とは何か、そのための社会的不利とは何かを考え、ICF（国際生活機能分類）や障害者権利条約などを踏まえ、障害の有無に関わらずそのひとらしく地域生活が営めるためのあり方を学んでいます。「精神看護学概論」「精神看護方法論」では、精神疾患を抱えたひとのみならず各世代に起こりうるこころの問題、その支援のあり方、その家族への支援のあり方を学んでいます。

さらに、2年次での専門基礎科目において、「精神発達論」「カウンセリング論」を開講し、各発達段階における課題を事例演習を通し学ぶとともに、認知行動療法などの各種援助技法を学んでいます。

次に、3、4年次には「精神看護の実践」「統合実習」「看護研究Ⅱ」を開講しています。「精神看護の実践」「統合実習」では、これまでの「形式知」を自らの実践において「実践知」にするとともに、教員の「暗黙知」を「形式知」として伝授し、学生の実践能力の向上を図っています。「看護研究Ⅱ」では、学生の知識や経験を発展させる集大成として看護研究に取り組んでいます。

以上のように各学年に応じて知識・技術を集約化し、よりよき看護師としての実践能力を培っています。

● 在宅看護学領域の教育

在宅看護学領域 教授 藤井 かし子

在宅看護学領域では、疾病や障害、加齢に伴う変化などを有するすべての人が、自宅や自宅に準じた環境で安心・安全にその人らしく暮らせるような看護実践を学べるようにしています。2022年度より全国的に導入された新カリキュラムによる「在宅看護論」の「地域・在宅看護論」への名称変更を踏まえて、在宅看護を地域医療構想の中で捉える教育を重視しています。

1年次に必修科目として「健康・生活・地域実習」を開講することにより、看護の対象であるひとを生活者として理解し、身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広くとらえる視点を養います。2年次前期に開講している「地域・在宅看護学概論Ⅱ」では、在宅療養者とその家族の意思を尊重した在宅看護を展開するために必要な知識を学習し、適切な看護を提供できる基礎的能力を学べるようにしています。2年次後期の「地域・在宅看護方法論」では、疾病や障害を持ちながら地域で生活する療養者およびその家族の意思決定を支援し、安全・安楽な日常生活に必要な看護実践の知識・技術を学びます。在宅看護の実践に必要な態度を身につけ、次年度の実習につなげます。

3年次の「地域・在宅看護の実践」では、実習地域の特性と地域における訪問看護ステーションの機能や役割について理解を深めます。訪問看護ステーションを利用して、居宅において継続して療養を受ける状態にある方に対し、個別性を踏まえた看護過程の展開ができるように学修します。4年次の「統合実習」では、地域包括支援センター、看護小規模多機能型居宅介護等の実習を通じて、地域の健康課題と多様な地域・在宅看護活動を学び、地域包括ケアシステムにおける住民の健康とQOL向上のための包括的な看護能力を修得します。

● 公衆衛生看護学領域の教育

公衆衛生看護学領域 教授 山口 佳子

公衆衛生看護学領域では、1、2年次に看護師・保健師必修科目として「地域・在宅看護学概論Ⅰ」「保健医療福祉行政論Ⅰ」などを開講することにより、発達段階や健康課題の異なるすべての人々が地域でその人らしく生活することを支援する各種制度と、それらを活用して展開する保健師活動の実際について学べるようにしています。地域で生活する人々を支える看護の重要性と保健師の役割、社会資源について、低学年からすべての学生が学ぶことにより、看護師として保健師と連携・協働しながら地域包括ケアを担う能力を培うとともに、保健師課程履修を動機づけることを意図しています。

3年次には基礎看護学と公衆衛生看護学を除く6つの看護学領域で看護師課程の臨地実習（領域別実習）を行います。公衆衛生看護学領域では、領域別実習がない期間（4月、8～9月、1月）に看護師選択・保健師必修科目として「公衆衛生看護学概論」「地域保健」などの集中講義を行い、保健師に関心のある学生が保健師についてさらに詳しく学べるようにしています。こうした学修を経て3年次末に選抜試験を行うことにより、学ぶ意欲と能力、適性のある学生が保健師課程を履修できるようにしています。

4年次の保健師課程では、事例演習や地域診断演習を行った上で市町村や保健所で実習を行います。学校保健と産業保健については集中講義の直後に実習を行います。また、「公衆衛生看護管理」の講義ではこれらの実習経験を振り返ります。さらに、実習と関連づけて「看護研究Ⅱ」に取り組みます。このように講義や演習、実習、研究を連動させて学びを深めることにより、保健師として果たすべき役割を追究し、実践する能力を培っています。

● 看護学科における医学教育

成人看護学領域 教授 平田 浩三

現在私は、看護学科の学生に「形態機能学」「生命科学」「疾病治療論Ⅱ」「疾病治療論Ⅲ」「疾病治療論Ⅳ」「疾病治療論Ⅵ」「看護研究Ⅰ」「看護研究Ⅱ」「医療英会話」「看護・医学英語」「化学概論」を講義しています。講義に際しては、医療関係者として必ず知っておかなければならない知識を確実に身につけること（講義前の小テスト、国家試験問題の解説）、また各専門領域の講義との連携（看護ケアのポイント）を念頭に置きながら、わかりやすく興味のもてる内容となるよう努力しています。さらに、生物や化学分野など基礎的な講義では、大学らしく生命の神秘に焦点を当て、より臨床的な講義では最新の医学がどのような成果を挙げつつあるのかも講義しています。

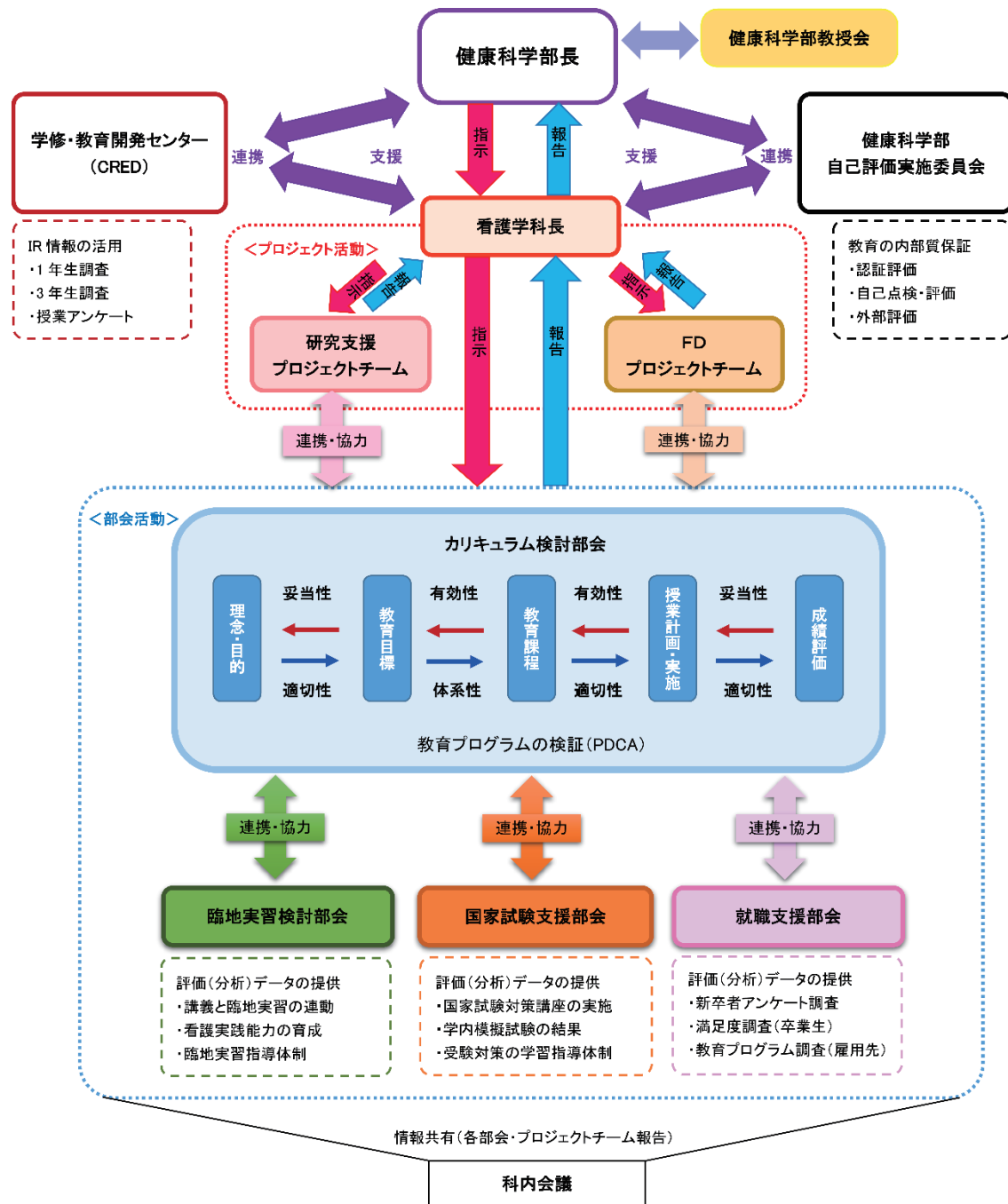
なお、日本の大学生は、厳しい受験の影響からか、効率的に知識をまとめることに長けており、また講義にそのようなまとめを要求しがちですが、世界（西欧）の大学では様相が少し異なります。資料、書籍を課題として毎週課し、そのレポートを提出させながら、知識のみではなくより実践的な学問（探究）と思考法の修得に重点を置いた、双方向性講義が行われます。ハーバード大学教授マイケルサンデルがNHKで行っていた講義、「これから正義の話をしよう」を思い浮かべれば理解しやすいでしょう。

日本でも最近、高校で「探究」の授業が開始され、日本の大学の教育も大きく変わっていくことが予想されていますが、本学看護学科では、このような変化を先取りした教育が実践されています。私の担当講義においても、「医療英会話」「看護・医学英語」の講義ではもちろん、医学分野の講義においても学生に講義内容に関連した実践的な質問を行い、また学生の質問に答える形で実践的知識の定着と応用を図っています。コロナ禍、それに続くインフルエンザの流行で、現在は中断していますが、次年度以降再開する予定です。

【教育の質の維持・向上】

< 内部質保証体制 >

本学看護学科では、以下の体制により、教育・研究の質の維持・向上に組織的に取り組んでいます。看護学科全領域の教授で構成する「カリキュラム検討部会」は、「臨地実習検討部会」「国家試験支援部会」「就職支援部会」や、「研究支援プロジェクトチーム」「FDプロジェクトチーム」と連携・協力して、カリキュラムや学生の成績評価などについて審議し、教育プログラムを検証しています。月1回開催する科内会議で、部会やプロジェクトチームの報告を行い、学科教員全員で情報を共有しています。



<看護学教育評価>

日本の大学における看護学教育の質を保証するため、「一般財団法人 日本看護学教育評価機構」では「看護学教育評価」として、①教育理念・教育目標に基づく教育課程（カリキュラム）の枠組み、②教育課程における教育・学修活動、③教育課程の評価と改革、④入学者選抜の4つの評価基準について評価を行っています。

本学看護学科は全国の大学に先駆けて審査を受け、すべての評価項目において「適合」と評価されました。看護師養成課程のある大学は全国で303校（厚生労働省：看護師等学校養成所入学及び卒業生就業調査）に上りますが、「看護学教育評価」を受けて適合と評価されているのは、本学を含む21校のみです（2022年度時点）。また、大学所在地である狭山市、入間市の高齢化を踏まえた保健ニーズに対応する社会貢献活動を教育実践に結びつけているところは本学の特色として評価されました。さらに、実習前後に実習室を開放してシミュレーション学習を支援するなど、学生が主体的に学ぶための工夫も高く評価されました。



<GOOD 授業賞>

授業の学生満足度が高く、教育的に質の高い授業を表彰する「GOOD授業賞」が2022（令和4）年度に創設され、看護学科は2年連続で受賞しました。

- ・2022（令和4）年度受賞：「ヘルスアセスメントの技術」基礎看護学領域 松江なるえ・柳田真季子・酒井博子・谷岸悦子・藤森京子
- ・2023（令和5）年度受賞：「看護研究Ⅱ」公衆衛生看護学領域 山口佳子・大野順子・北澤健文

<学科教育強化費による教育の強化・充実>

看護学科では、通常の授業科目の他に、「学科教育強化費」を活用して以下の活動を行い、学科の特性に応じた教育の強化・充実を図っています。

● 2015(平成27)～2019(令和元)年度 解剖見学実習(2年生)

東京医科大学病院 人体構造講座において、同講座教員による講義および解剖見学実習を行いました。実施にあたっては、子ども支援学科 宮島祐教授にご尽力いただきました。

● 2020(令和2)年度 人体解剖学に関する学習(2年生)

コロナ禍により解剖見学実習の受入が中止となったため、学内でのDVD学習、ワークブック配布による自己学習により、人体解剖学の知識を深めました。

● 2021(令和3)年度～現在 GPS-Academic(3年生)

コロナ禍が続く中、2021年度からは、領域別実習終了後の3年次12月にGPS-Academicの受験機会を設け、結果の活用に関するフォローアップガイダンスを1月に実施しています。GPS-Academicとは、大学教育や社会で活躍するために必要な「問題を解決する力」を多面的にとらえ、学修成果を可視化するアセスメントテストです。本学では入学時と3年次5月に全学科で実施していますが、看護学科では3年次実習終了後にも実施することで、実習による自己の成長と今後の課題を明確化し、4年次の学修や就職活動に活かしています。また、教育評価に活用し、教育の質の向上に役立てています。

<教育方法・教材の開発>

● 東京家政大学「教育開発推進事業(学長裁量経費)」

教育方法や教材の研究・開発に対して必要な経費全般を補助する「教育開発推進事業(学長裁量経費)」を積極的に取得し、教育の充実・向上を図っています。

● デジタルトランスフォーメーション導入型看護教育

2021(令和3)年度に文部科学省大学改革推進等補助金「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」に採択され、視線や姿勢のデジタルデータを活用した看護技術教育プログラムの開発に着手しました。2023(令和5)年度には本学ヒューマンライフ支援機構のプロジェクト研究助成費を獲得し、デジタルトランスフォーメーション導入型看護教育の研究を継続しています。

教育方法・教材の開発研究

年度	☆学長裁量経費事業 ★その他
2015(平成27)	☆「『女子の健康』ピアエデュケーションシステム構築に向けての女子看護学生の知識・健康管理・健康状態に関する調査」 玄番千恵巳・鈴木幹子 ☆「災害時に自助力を育む教育ストラテジーの開発～地域で助けられる大学生から助けることのできる大学生への変容～」 齋藤麻子・谷岸悦子・齋藤正子・岩田みどり ☆「体験的演習による周手術期看護に関わる学習の工夫」立石和子・太田美帆・西久保秀子・有澤舞
2016(平成28)	☆「『女子の健康』ピアエデュケーションシステム構築に向けて～看護学生のエンパワーメントとピアエデュケーター養成プログラム案の作成～」大久保麻矢・玄番千恵巳・鈴木幹子・井上直子 ☆「学生の経験的学びをはぐくむことが可能となる臨地実習への取り組み～臨床場面の教材化に向けて」 立石和子・太田美帆・西久保秀子・有澤舞・村上希
2017(平成29)	☆「慢性病患者の食に関する看護実践力を養うアクティブラーニング～調べる・選ぶ・つくる・食べる・対話する体験から学ぶ」 太田美帆・西久保秀子・有澤舞・村上希・立石和子・加藤和子(栄養学科)
2018(平成30)	☆「『手術直後の観察』を題材としたシミュレーション教育と臨地実習の相乗効果による看護実践力修得への取り組み」 西久保秀子・太田美帆・有澤舞・村上希
2020(令和2)	☆「地域包括ケアを推進する看護実践能力習得に向けたアクティブラーニングによる事例演習プログラムの開発」 植村直子・一柳由紀子・大野順子・北澤健文・山口佳子
2021(令和3)	☆「在宅看護実践につながる在宅看護学の教育内容の明確化と質の向上」霜越多麻美 ★文部科学省「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」 北澤健文・杉田理恵子・川内健三・大黒えりか・一柳由紀子・藤森京子・山口佳子・鈴木幹子
2023(令和5)	★本学ヒューマンライフ支援機構 プロジェクト研究助成費「看護教育DX化とその学習効果に関する基礎的研究」 北澤健文・杉田理恵子・川内健三・大黒えりか・一柳由紀子・柳田真季子・柳橋正智・鈴木晶子・山口佳子・鈴木幹子

<学科主催 FD>

FD(ファカルティ・デベロップメント)とは、大学として求める教員像の育成を目的として、教員の授業の内容及び方法の改善を目標して行われる組織的・継続的な教育改革の取り組みの総称です。全学的なFD活動に加えて、看護学科主催のFD研修を毎年実施しています。2022(令和4)年度には、各領域の教員をメンバーとする「FDプロジェクトチーム」を発足させ、学科主催FD研修の企画・運営などを行っています。

学科主催FD研修テーマ

年度	学科主催FD研修テーマ
2015(平成27)	●大学におけるポートフォリオ ●DP1～5とカリキュラムマップ・カリキュラムチェックリスト、カリキュラムツリー
2016(平成28)	●新たな評価方法 ルーブリック
2017(平成29)	●学生のジェネリックスキルを育成する教育方法の検討
2018(平成30)	●実習の目的・目標・期待される成果について～看護学科のディプロマポリシーを用いた点検・評価
2019(平成31・令和元)	●臨地実習におけるハラスメント防止
2020(令和2)	●より質の高い研究を目指して
2021(令和3)	●GPSアカデミックの有効活用について
2022(令和4)	●新カリキュラム『健康・生活・地域実習』の成果と課題 ●教育実践を研究につなげ、研究成果を教育実践に還元する
2023(令和5)	●「DPS国際的視野から行動する力」の学生の達成感を向上するための看護学科の課題と対策 ●DX技術を活用した看護教育に研究的に取り組もう

【クラス担任制・クラス懇談会】

本学は、学修、学生生活、進路などについて学生の相談相手となり、指導・支援を行う「クラス担任」制度を設けています。看護学科では1学年を2クラスに分けてクラスごとに担任、副担任、サポーターの教員を置き、年度開始当初に全学生を対象に個別面談を行う他、随時相談にのることにより、学生一人ひとりの状況に応じたきめ細かいサポートを行っています。また、クラス内のコミュニケーションを図るため、学生の中からクラス委員を選出し、担任と相談しながらクラス運営や年1回のクラス懇談会を行っています。

【フレッシュマンセミナー・導入教育】

看護学科での学修について理解を深め、大学生活に関する不安を軽減すること、大学生活の基盤となる新入生同士や教員との人間関係の構築や心身の健康の保持増進などを目的として、1年次にフレッシュマンセミナーと導入教育を行っています。

4月初旬に開催するフレッシュマンセミナーは、1期生から5期生までは狭山キャンパス内のセミナーハウスに宿泊し、1泊2日でウェルカムパフォーマンス、校歌練習、教員紹介や学生の自己紹介、先輩たちとの座談会、キャンパスツアー、レクリエーション、4年後の自分への手紙など多彩なプログラムを実施していました。子ども支援学科やりハビリテーション学科との合同プログラムもあり、学科間交流の機会にもなっていました。2020（令和2）年度はコロナ禍で中止となりましたが、翌年度からは、半日に短縮して学科ごとに開催する形式で再開しています。

導入教育では、埼玉県警察による「防犯講座」、災害時を想定した「炊き出し訓練」、情報セキュリティや学内情報処理システムについて学ぶ「情報処理講座」、学修の基盤となる心身の健康を維持・増進するための「健康教育」、「大学生の学び方講座」、「論文作成講座」、臨地実習に役立つ「マナー講座」などを行ってきました。



【国家試験支援】

看護師、助産師、保健師の国家資格を取得するためには、所定の科目をすべて修得した上で、4年次2月に行われる国家試験に合格する必要があります。そのため、看護学科では開設当初から国家試験支援部会を設置して、組織的な支援を行ってきました。

● 1期生が国家試験を受けるまで(2014～2017年度)

学科教員が中心となり、看護師国家試験出題基準「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」に相当する課題を独自に作成し、1年次の6月から1月まで20回にわたり課題学習を行いました。課題は「調べる」「書く」を重視した内容で、課題提出日が近づくにつれて図書館の利用率が増えました。また、国家試験予備校から講師を招いて1、2年生対象の学内講座を開催し、看護師国家試験とはどのようなものか、問題の解き方、低学年時から学修することの重要性を説明し、解剖生理学の講義を行いました。

さらに、1年次から4年次まで各学年で学修段階に応じた模擬試験を行い、国家試験支援部会でポートフォリオ用紙を作成して学生に配布し、受験前には「目標」、受験後には「自己採点結果」と「今日の振り返り」、「今後の課題」を書くように指導しました。結果返却時には模試結果説明会を開催し、模試結果の見方を説明するとともに、ポートフォリオに「成績」、「成績を確認した感想・気づき」、「新たに見えた課題」を書き、単に模擬試験を受けるのではなく、学生が自己の学修課題や成長を確認し、日頃の講義や演習、実習の重要性を認識できるようにすることによって、主体的な学びを促しました。

4年次には、国家試験予備校講師による国家試験対策講座を開催し、年末には本番に近い会場受験を体験できるように、板橋校舎で模擬試験を実施しました。学生はいつもとは異なる環境で緊張感をもって受験し、よい刺激となりました。年明けには成績不振者に対する補習講座も行いました。

各学年における模擬試験や4年次の国会試験対策講座の時期や内容、模擬試験受験料徴収の仕組み、国家試験受験手続説明会の内容、国家試験実施後に行う自己採点、合格発表後の対応等、今日の国家試験支援策の基礎を築きました。

● 現在の国家試験支援策

開設当初からの取り組みを発展・精錬させ、現在は以下のような国家試験支援策を行っています。各学年で学修進度に応じた模擬試験を実施し、各自の到達レベルや課題を確認することで、段階的、計画的に学習に取り組めるようにしています。

4年次には、国家試験予備校の講師を招いて対策講座を開催するなど、支援策を強化しています。助産師や保健師の国家試験については、各課程の教員が支援しています。



4年間の国家試験支援策スケジュール

学年	看護師課程	助産師課程・保健師課程
1年次	・低学年向け模擬試験（7月）	
2年次	・低学年向け模擬試験（6月、12月）	
3年次	・看護師国家試験模擬試験（5月、9月、1月）	<保健師課程>看護師必修問題過去問学習（3月～4年次4月）
4年次	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験対策オリエンテーション（4月） ・看護師国家試験模擬試験（5月、7月、9月、10月、11月、12月、1月） ・国家試験予備校講師による国家試験対策講座（4月～1月：30回） ・学科教員による学習計画立案や学習に関する個別支援 ・国家試験受験手続オリエンテーション、出願書類の配布・回収（11～12月） ・国家試験終了後の自己採点、国試対策に関するアンケートの実施（2月） 	<保健師課程> <ul style="list-style-type: none"> ・保健師国家試験対策オリエンテーション（4月） ・保健師国家試験模擬試験（6月、9月、10月、1月）と発表会、個別面談 ・保健師課程教員による補講、学習会（10～1月）
		<助産師課程> <ul style="list-style-type: none"> ・助産師国家試験模擬試験（7月、12月） ・助産師課程教員による個別支援（1月）

● 看護師・助産師・保健師 国家試験合格状況

看護師、助産師、保健師のいずれについても、1期生から6期生まで常に全国平均を上回る高い合格率を維持してきました。2022（令和4）年度には看護師、助産師、保健師の3つの資格で合格率100%を達成しました。

看護師・助産師・保健師 国家試験合格状況



卒業期	試験実施年度	合格率 (%)						本学の合格者数/受験者数 (人)		
		看護師		助産師		保健師		看護師	助産師	保健師
		本学	全国	本学	全国	本学	全国			
1期生	2017（平成29）	99.0	91.0	100.0	98.7	94.4	81.4	98/ 99	6/6	17/18
2期生	2018（平成30）	100.0	89.3	100.0	99.6	92.9	81.8	104/104 (既卒者1含む)	4/4	13/14
3期生	2019（令和元）	98.9	89.2	100.0	99.4	100.0	91.5	94/ 95	3/3	12/12
4期生	2020（令和2）	98.9	90.4	100.0	99.6	100.0	94.3	90/ 91 (既卒者1含む)	5/5	11/11
5期生	2021（令和3）	99.0	91.3	100.0	99.4	100.0	89.3	103/104 (既卒者1含む)	6/6	8/8
6期生	2022（令和4）	100.0	90.8	100.0	95.6	100.0	93.7	100/100 (既卒者1含む)	6/6	12/12

※助産師、保健師の受験者数：試験実施年度の各課程修了見込者全員

● 看護学科の国家試験支援策が学園貢献賞を受賞(2018年度、2023年度)

こうした実績が高く評価され、2018（平成30）年度には齋藤麻子国家試験支援部会長ら「健康科学部看護学科 国家試験対策チーム」が学園貢献賞（学長賞）を受賞しました。さらに、2023（令和5）年度には、北澤健文部会長をはじめ、2021（令和3）年度に定年退職した今留前学部長を含む看護学科教員一同に、学園貢献賞（学長特別賞）が授与されました。

【就職支援・卒業後のキャリア形成支援】

<就職支援>

本学はもともと文系の女子大学でしたので、手厚い就職支援が行われていました。看護学科ではこうした伝統を受け継いで、就職支援部会の教員と狭山学務部学務課職員が協働し、看護職固有の就職活動に即した支援を行っています。

3年次12月に領域別実習が終わると、看護師・助産師の就職活動が本格化します。そのため、3年次11月に「就職ガイダンス」として、看護学科教員である就職支援部会長から就職活動の留意点を伝えています。3年次12月には「GPS-Academic」というアセスメントテストを実施し、1月に「フォローアップガイダンス」を行うことで、就職活動に向けて自己分析を深められるようにしています。また、1月には「OG懇談会」を開催し、看護師、助産師、保健師として活躍している卒業生を招き、就職活動や国家試験対策について講演や質疑応答を行っています。さらに「病院説明会」を開催し、病院の看護部や人事部の方から業務内容や採用試験等についてお話を伺う機会を設けています。

3年次末から4年次には、担任教員や「看護研究Ⅱ」の指導教員が、就職先の選び方やエントリーシートの書き方等、就職に関する相談にのっています。また、豊富な実務経験と管理職経験をもつ看護専門職が来校し、希望者に対して個別に就職指導を行う「就職アドバイザー」制度があります。さらに、ハローワーク職員による就職指導も受けられます。

大部分が地方公務員として就職する保健師については、看護師や助産師とは就職活動が異なるため、保健師課程選抜試験合格者に対し、3年次3月に「保健師就職説明会」を開催し、保健師課程の教員、就職アドバイザー、保健師内定者による講義や質疑応答を行っています。

また、公務員試験予備校講師による「公務員対策講座」を学内で実施しており、希望者は1、2年次から受講できます。

<卒業後の進路>

就職決定率はほぼ毎年度100%となっています。大部分は看護師として医療機関に就職していますが、就職先は、国立病院機構、都道府県・市町村や地方独立行政法人、日本赤十字社や済生会等の運営する病院、大学病院、民間病院など多岐にわたり、所在地も埼玉県内や東京都内にとどまりません。本学看護学科は附属病院を持たず、さまざまな施設で実習を行うため、医療機関ごとに特性が異なることを実感でき、自分に合った就職先を選ぶ上で役立っています。

助産師課程修了者は、本学実習施設である市立青梅総合医療センター（旧 青梅市立総合病院）をはじめとする医療機関に、助産師として就職しています。

保健師課程修了者は、公務員試験を突破して新卒で保健師として就職する割合が高く、埼玉県内市町村や特別区、ふるさとの自治体などに就職しています。看護師として働いた後に保健師に転職する卒業生も増えてきました。

また、看護師、助産師、保健師はいずれも国家資格であり、常に社会から求められている強みがあることから、職種を変えずに転職する 경우가少なくありません。そのため、卒業後も随時、看護学科教員が就職に関する相談に応じています。

看護学科 卒業生の進路状況

卒業期	卒業年度	卒業生数	就職者数				進学者数	就職率 (※1)	就職決定率 (※2)	
			総数	内 訳						
				看護師	助産師	保健師				その他
1期生	2017 (平成29)	99	93	84	6	3	-	4	97.9%	100.0%
2期生	2018 (平成30)	103	99	91	3	5	-	2	98.0%	100.0%
3期生	2019 (令和元)	95	94	87	3	3	1	-	98.9%	98.9%
4期生	2020 (令和2)	90	89	77	5	6	1	1	100.0%	100.0%
5期生	2021 (令和3)	104	101	88	6	6	1	1	98.1%	99.0%
6期生	2022 (令和4)	100	95	84	6	4	1	4	99.0%	100.0%

※1:就職率=就職者数÷(卒業生数-進学者)

※2:就職決定率=就職者÷就職希望者

< 母校に帰る日 >

本学では、卒業後のキャリア形成支援の観点から、卒業して1年目の“新卒業生”たちが大学に集まり、同級生や教員たちと話し合う「母校に帰る日」を学科ごとに開催しています。

看護学科では、病棟で夜勤を担当するようになり不安が高まりやすい6月に開催しています。毎年多くの“新卒業生”たちが集まり、業務内容や教育体制、日頃の悩みや解決策などを語り合い共感しあい、教員から支持や助言を得ることで、エネルギーをチャージしていきます。「母校は母港」と実感できる一日となっています。



【卒業生たちの活躍】

2017 (平成29) 年に1期生が卒業してから6年たち、看護学科の卒業生総数は2022 (令和4) 年度末で591人となりました。まじめでひたむきに看護に取り組む姿勢は、就職先から高く評価されています。実習指導者として活躍する卒業生も増えました。

また、看護学科3年生に対する就職支援である「OG懇談会」や、2022 (令和4) 年度から始まった授業科目「キャリアデザイン」の講師として、現在の活動内容や在学中の学び方について、在校生たちに伝えてくれる卒業生もいます。2023 (令和5) 年度の導入教育では、本学所在市の保健師として就職した卒業生が健康教育を担当しました。

自己研鑽に励み、各種資格を取得したり大学院に進学したりする卒業生もいます。

卒業後も引き続き、本学の建学の精神「自主自律」に則り、生活信条「愛情・勤勉・聡明」を実践していることがうかがえます。

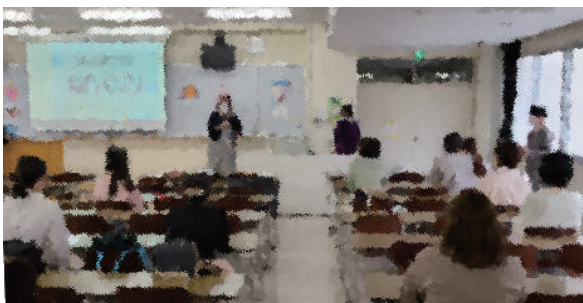
【看護学科同窓会「緑看会」】

今留忍初代看護学部長・健康科学部長の発案により、2022（令和4）年度に看護学科同窓会「緑看会」を発足させました。本学看護学科は、附属病院を持たないこと、看護師以外にも保健師または助産師の国家試験受験資格が取得できることなどから就職先が多様で、同じ職場に同窓生がいないこともしばしばです。そのため、「緑看会」では、卒業年度や就職先の異なる同窓生と交流することによって、仕事やライフイベントについて相談したり、自分の成長を実感したりできるようになることを意図しています。卒業生の中から会長1名、看護師課程、保健師課程、助産師課程各1名の副会長を選出し、運営役の看護学科教員がサポートしています。

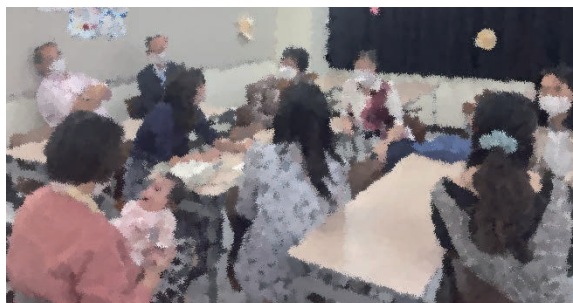
総会・交流会は、第1回を2022（令和4）年10月2日（土）13：30から、第2回を2023年10月21日（土）14：00から、狭山キャンパス第10講義室で、対面とwebの併用により開催しました。参加者は、第1回は卒業生11名と教員14名の25名、第2回は卒業生13名と教員14名の計27名で、赤ちゃんと一緒に参加してくれた卒業生もいました。総会では、緑看会の趣旨や運営方法の説明、役員承認を行いました。交流会では、参加者全員で近況報告を行った後、少人数のグループに分かれて、仕事の内容や職場の様子、結婚や出産などについて自由に語り合いました。卒業年度や就業先が違って、東京家政大学で看護を学んだ仲間であることを実感し、絆を深めることができました。

【交流会参加者の声】

- ・同期や先生と久しぶりに会えて楽しかった。明日からまた仕事頑張ろうと思った。
- ・普段交流できない先輩方や先生方のお話をきくことができ良かった。
- ・同期以外の卒業生と関わる機会ができ、様々な職場の状況について知ることができた。
- ・病院やそこにくる患者の特徴や、人間関係など深い話ができよかった。
- ・参加者の話を聞いて、刺激を受けた。看護職としてまた頑張ります！
- ・やりがいや悩みを共有できて、今後への励みになりました。



第1回総会・交流会



第2回総会・交流会

<緑看会役員からのメッセージ>



10周年に寄せて

緑看会会長 金子 優(秀和総合病院 2階西病棟)

東京家政大学の1期生として大学を卒業し6年が経ちました。大学卒業後は大学病院に就職して4年間循環器内科に勤務し、現在は総合病院の循環器内科、消化器内科の病棟にて勤務しています。今年、心臓リハビリテーション指導士の資格を取得したため、今後は患者さんの指導にも力を入れていきたいと考えています。

私の中での大学4年間はたくさんの出会いがあり、多くの経験ができた4年間でした。1年生では初めての実習で自分の看護に対する考えの浅さを感じ、まだまだ何もできないと実感し、2年生では自分自身が入院を経験し、医療には多くの人に関わっているということを実感しました。3年生では実習で多くの出会いがあり、どんな看護師になりたいか考え続ける日々でした。4年生では進路を看護師一本にすることに決めたため、この1年間を無駄にしないようにと海外も含めボランティアに行ったり、やりたいことを全部やったと思う1年間でした。この4年間のすべてが人生の糧になっていると感じています。看護のことをほとんど知らずに入学した私が看護師として社会に出てプロとして働く覚悟を決めるためには4年間という時間が必要でしたし、東京家政大学だったからやりたいことを明確にして卒業できたと思っています。

人との出会いを大切に、いろいろなことにチャレンジして時には悩みながら、人に相談しながらどんな人になりたいか、社会に出て何をしたいか探して行ってほしいと思います。



門を叩けば、開かれる

看護師課程副会長 小島 望(榊原記念病院 入退院支援センター)

このたびは、看護学科創立10周年おめでとうございます。

私にとって本学科は看護師への道を夢ではなく目標に変えてくれた場所です。

私は小さい頃から看護師になることが夢でしたが、持病によりその夢を一度諦めたことがあります。十代から二十代に移るときには私は学校で学ぶことも、社会に出て働くこともできない状態で過ごしていました。しかし、ふとした瞬間からもう一度挑戦してみようとチャンスを掴むことができ、もう一度看護師になることを志しました。

私は本学科の「女性の自主・自律」「子ども学部との併設」「新設で創り上げていく」という点に魅力を感じ、入学を希望しました。

入学してからは、楽しみたい、学びたいという気持ちを大切に、友人と共に思う存分時間を使うことができ、先生方にも真摯に向き合ってくださいました。学生として過ごす中で看護師になることを夢みる“いつか”が具体的な目標へと変わっていきました。

卒業して早5年が経ち、大変ながらも看護師として働き続けることができていることに幸せを感じています。

あの時、東京家政大学看護学科の門を叩いてよかったと思います。またそれが卒業した今も居場所として存在していることが大変有難いです。支えて頂いた方々への感謝を胸に、これからは自分が誰かの健康と暮らしに寄り添っていくことができるよう日々模索していきたいと思っています。

看護学科が益々発展していくことを心よりお祈り申し上げます。



看護学科開設10周年を記念して

保健師課程副会長 山口 朋佳(入間市役所 健康推進部 地域保健課)

この度は、看護学科開設10周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。私は平成26年4月に看護学科1期生として入学しました。そこから10年の月日が経ったことに感慨深い気持ちです。入学当初は在校生が少なく自然があふれる校舎でしたが、先日大学の講座で久しぶりに校舎を訪れました。今では多くの学生が通っており、とても賑わっている校舎は私にとって新鮮でした。私たちは1期生のため先輩がいない中での学生生活で、苦勞することも多かったです。その反面、自分たちで築き上げていこうとする力が芽生え、新しいことに挑戦しようというチャレンジ精神が身についたと思います。

卒業後は保健師として、現在の職場に入職しました。看護学科1期生で行政の保健師として就職した同級生がおらず、就職した当初は不安でした。そんな時に、家族や大学時代の友人、職場の同僚などに支えられたことで、現在まで仕事を続けられたと思っています。今では私のことを知って保健師を目指そうとする後輩がいることを聞いて、嬉しく思っております。今後も看護学科の学生の皆様が看護師や保健師、助産師として活躍されていくことを期待しています。

未筆ながら、看護学科と学生の皆様の一層のご発展とご活躍を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



10周年によせて

助産師課程副会長 正慶 帆香(市立青梅総合医療センター 産科病棟)

東京家政大学看護学科開設10周年おめでとうございます。

東京家政大学看護学科教職員の皆様をはじめ関係者の皆様に心よりお祝いを申し上げます。学生時代を振り返ると学んだことはたくさんありますが、その中でも「その人らしさ」を大切に看護するということを今でも大切にしています。分娩介助を実施する病院実習を行なった際、当初は産婦さんに関わる時間よりも教材と今の状態を見比べて正常なのか、異常なのかを考える時間が多くなっていました。しかし、妊娠や出産は誰一人として同じ過程をたどる方はいません。妊娠週数や分娩の経過など基準となる指標はありますが、そこに当てはめるだけでなく、その方自身を実際に見て、触れて、本当に必要としている支援は何かを考え実践する必要があることを身をもって学びました。

助産師として働き始めて早くも5年目となります。日々さまざまな妊産さんや褥婦さんと関わる中で、もっと良い関わり方ができたのではないかと自問自答することもあります。 「あなたがいたから頑張れた。」と声をかけていただくこともあり、やりがいを感じています。

東京家政大学で学んだ「その人らしさ」を大切に、これからも精進していきたいと思えます。

最後になりますが、東京家政大学看護学科教職員の皆様をはじめ関係者の皆様、同窓生の皆様のご健勝と増々のご活躍を祈念してお祝いの言葉とさせていただきます。

【在校生たちの活躍】

< 狭山緑苑祭 >

狭山キャンパスで10月に開催される学園祭「狭山緑苑祭」には、在校生たちが積極的に参加しています。看護学科の学生有志が企画・運営する「学科企画」では、血圧や骨密度等の測定、臓器パズル、新生児人形の抱っこ体験等、看護学科らしさを活かした内容を実施しており、幅広い年代の方々に好評を博しています。



狭山緑苑祭 開催状況

回	開催年度	狭山緑苑祭		学科企画		看護学科有志団体による企画
		開催日時	テーマ	テーマ	内容	
第1回	2014 (平成26)	10月26日(日) 13:00~16:30	Memory ~新しい家政の 1ページ~	白衣の天使に なってみよう	①ナースになろう!(ナース服体験) ②衛生的な手洗いを学ぼう! ③赤ちゃんのお世話を体験してみよう! ④スタンプラリー	●TRIPLES(看護学部仲よし3人組のダンス)
第2回	2015 (平成27)	10月25日(日) 10:00~16:30	大和撫子 ~華笑み薫る家政 のおもてなし~	看護体験	①白衣の天使になろう ②応急手当を体験しよう ③測定してみよう ④フィジコと聴診器 ⑤シニア&プレマ体験 ⑥スタンプラリー	●RNA(看護学部学生有志のダンス)
第3回	2016 (平成28)	10月23日(日) 10:00~17:30	Kaseiの輝き ~無限世界への 大冒険~	看護体験	①高齢者体験 ②ナース体験をしよう!!(ナース服着用体験) ③手をきれいに洗おう! ④フィジコさんの心臓の音を聞いてみよう! ⑤地震に備えよう!(簡易トイレを作る体験、非常食のプレゼント) ⑥スタンプラリー	●看護ボランティア同好会「トリアージ ワークショップ きずの手当~あなたはこんな時どうする?~」 ●救急看護法・災害看護検討会「臨地実習における 安全管理~災害発生時の対応~」 ●RN.A(看護学部学生有志のダンス) ●エベレストコーヒーPR隊(ハンドドリップコーヒー の販売)
第4回	2017 (平成29)	10月29日(土) 10:00~15:30	豪華絢爛 ~さやまつり~	君の体は。 ~見てみよう 健康状態~	①身長・体重・BMI・視力検査 ②血圧測定 ③骨密度測定 ④血糖値測定 ⑤ストレスチェック ⑥肺活量測定 ⑦スタンプラリー	●看護ボランティア同好会「かせい森のおうち お食事処」 ●エベレストコーヒーPR隊
第5回	2018 (平成30)	10月28日(日) 10:00~16:30	花より家政	The Body ~人間の体のしくみを のぞいてみよう~	①スタンプラリー ②体の脈に触れてみよう ③対光反射を体験 ④BMI診断 ⑤臓器パズル ⑥手浴体験 ⑦血圧測定体験	●看護ボランティア同好会「看護ボランティア 食堂」
第6回	2019 (平成31・令和元)	10月27日(日) 10:00~16:00	とうめい	Let's THINK! ~健康の ためにできること~	①臓器パズル ②手洗い体験	●看護ボランティアサークル(模擬店)
第7回	2020 (令和2)	10月25日(日) 10:00~16:00 (オンライン)	Power of smile ~笑顔の力~	不参加	不参加	不参加
第8回	2021 (令和3)	10月24日(日) 10:00~16:00 (オンライン)	コネクト ~繋がる優しさ、 照らす心~	その手洗い、アルコール 消毒、正しい方法で できていますか?	手洗い、アルコール消毒の方法の解説	●看護ボランティアサークル(ストレス対処 法)
第9回	2022 (令和4)	10月23日(日) 10:00~16:00	心のままに 全力で!	ようこそ東京家政大学 健康科学部看護学科へ! ~いろいろな看護を 体験してみよう!~	①スタンプラリー ②健康チェック(骨密度測定、SpO ₂ 測定、血圧測定) ③聴診器を使った音の体験 ④臓器パズル ⑤新生児人形の抱っこ体験	●看護ボランティアサークル「知ろうALS! 知ろう学生ヘルパー」
第10回	2023 (令和5)	10月22日(日) 10:00~16:00	10th Anniversary!! ~これからも、 あなたと共に~	DOKI DOKI 看護体験	①新生児人形の抱っこ体験 ②骨密度測定 ③血圧測定、聴診器体験 ④臓器パズル	●看護ボランティアサークル「看護の防災教室・ フードプロジェクト」「アボカ・カフェ」

< ボランティア活動 >

● 看護ボランティアサークル

「看護ボランティアサークル」は、学科開設年度に「看護ボランティア同好会」として発足し、板橋キャンパスにある本学附属女子高等学校での救命講習、狭山キャンパスにある「かせい森のおうち」(保育所)での健康教育等を行ってきました。また、狭山市老人福祉センター不老荘で「看護カフェ ナースのたまご」を定期的で開催し、レクリエーションやハンドマッサージ、血圧測定を行っています。さらに、宮城県南三陸町で東日本大震災の被災者を訪問したり健康カフェを開いたりしています。狭山緑苑祭にも積極的に参加し、模擬店、活動内容と学びの発表等を行っています。

南三陸町に関する活動資金として、2017、2019、2023(平成29、令和元、5)年度には本学後援会の「ドリームプラン奨学金」を獲得しています。また、活動の意義が評価され、2016、2017(平成28、29)年度の2年連続で、学校法人渡辺学園善行賞を授与されました。



● オープンキャンパス

オープンキャンパスには、学科開設当初から学生ボランティアが多数参加しています。「キャンパスツアー」や「在校生との交流」を担当し、本学看護学科の魅力や学生生活について丁寧に説明する在校生たちは、本学の生活信条「愛情・勤勉・聡明」を実践しており、来校者から高く評価されています。

● 学外でのボランティア活動

看護学科4年生の金子優さんは、看護小規模多機能型居宅介護「坂町ミモザの家」でボランティア活動を継続し、国際保健活動にも従事しました。ボランティアに取り組む姿勢と行動力に対し、2017（平成29）年度に学校法人渡辺学園善行賞が授与されました。

● その他

狭山キャンパス内にある「放課後等デイサービス つくし」や本学近隣市町村のイベントなどに学生ボランティアとして参加しています。

<人命救助>

在校生たちは、看護学科で学んだ救急看護法を実践して人命救助を行っています。2019（令和元）年度には、看護学科4年生の関田麻乃さんが、駅のホームで負傷した方に傷の処置と救急の手配を行いました。また、2023（令和5）年度には、看護学科4年生の土方佑夏さんが、飲食店で心肺停止状態に陥った方を周囲の方々とともに救護し、東京消防庁から感謝状を送られました。両名は、他人に対する極めて親切な行為で特に表彰に値する学生として、学園貢献賞（苫米地善行賞）を受賞しました。

<スポーツ>

看護学科の澤山あおいさんは世界ジュニアパワーリフティング選手権に出場し、2017（平成29）年度には銅メダル、2018（平成30）年度には金銀銅の3つのメダルを獲得しました。出場にあたっては、本学後援会から「ドリームプラン奨学金」のご支援をいただきました。功績が認められ、2017（平成29）年度には学園貢献賞（学長賞）を授与されました。

【後援会「ドリームプラン奨学金」】

本学には、大学院・大学・短大に在学する全学生の保護者と教職員によって構成される「後援会」があります。「ドリームプラン奨学金」とは、学生生活を更に豊かなものにするため、本学在学中の学生で個人的かつ社会的に有意義でオリジナリティあふれる計画をもって個人またはグループに対し、その計画の実現を後援会が助成することを目的として給付する奨学金です。

【学校法人渡辺学園貢献賞／学園善行賞】

学校法人渡辺学園貢献賞とは、他人に対する極めて親切な行為で特に表彰に値する学生、本学園の広報に特に貢献し新聞等マスコミにおいて記事が掲載されるなど表彰に値すると考えられる学生、学生の指導等に功績があり学園の名誉を高めたと認められる教職員等に対して、学校法人渡辺学園が授与する賞です。ほめて育てる教育の推進の一環として2016（平成28）年度に創設されました。

学校法人渡辺学園善行賞は、他人のためになることを密かに行っている人を発掘し発表することを目的とする賞で、2000（平成12）年に苫米地元理事長の寄付によって創設されました。2018（平成30）年度からは「苫米地善行賞」として学園貢献賞の中で表彰されています。

<在校生からのメッセージ>

● 東京家政大学に入学して



看護学科 1年 北野 和

幼い頃から医療職に就くことを志し、この春、看護学科に入学しました。教員の方とのコミュニケーションをしっかりと取ることが出来る大学に進学したかったため、オープンキャンパスで在校生の方と教員の方が話している場面を見てこの大学に決めました。入学してからも、多くの学生がいるなか、一人一人とコミュニケーションを取ってくださっていることを実感しています。

大学に入学し、学びたかったことを学べるのがとても楽しく、充実した学校生活を送ることができています。授業外では緑苑祭実行委員会に所属して学園祭運営に携わりました。リハビリテーション学科と合同の授業でも交友関係が広がりましたが、緑苑祭実行委員会に入り、学年学科を超えたつながりを持つことが出来ました。委員会では様々な学生企画の管理や食品衛生について担当し、委員で協力しながら緑苑祭を終えられたことはとても貴重な経験となりました。

看護学科で勉強するなかで、学びに対して楽しさを感じられたことが印象的で新鮮な一年でした。来年からはさらに専門的な内容を学ぶことになりますが、今年度学んだことを活かし、楽しむことを忘れずに、多くのことを吸収していきたいです。

● 看護学科での学び



看護学科 2年 後藤 真咲

入学してから私は、学びたかったことを学べる楽しさを日々実感しながら過ごしています。長らく自分が目指していた“助産師になる”という夢の実現が、努力するほど近づいてくることが嬉しい毎日です。自分のできないことに気づき落ち込むこともあります。それでも一生懸命に取り組んだり、努力した分成長を実感することができます。

本学に入学して以降、人生ではじめて学ぶことの楽しさを知りました。「自分がやりたいことの実現のために、自分の意思で選んだ本学の看護学科で学んでいる」という事実が、学ぶ喜びや充実している感覚に繋がっているのだと思います。人生のうちで自分の好きなことを学べる嬉しさに気づけたことが、本学に入学して良かったと心から思える理由の一つです。

本学看護学科の魅力は、それぞれの人生を最期のときまで「その人らしく生きる」を大切にしたい看護を学べるころだと思っています。入学以前の私は、看護とは入院している人のお世話や注射をすることである、と考えていました。本学で様々な分野を学ぶ中で、「よりその人らしく生きるためにはどんなケアが必要か」という視点で看護を展開する能力が備わったと思います。

これから長期にわたる実習や国試など多くの壁がありますが、私には本学で学ぶべきこと、学びたいことがまだまだ沢山あります。夢実現のため着実に歩みを進めているこの瞬間の喜びを忘れず、学ぶ環境のある今に感謝しながら日々精進して参ります。

● 看護学科に入学して



看護学科 3 年 棚澤 ひとみ

私はオープンキャンパスに参加した際に、東京家政大学の看護学科にしかない魅力や特徴を多く感じました。中でも、保健師・助産師コースがあることは、私が東京家政大学看護学科への入学を決めた理由のひとつでもあります。保健師や助産師を目指せることは、自分の将来の選択肢が広がるのみならず、幅広い分野と知識から、より多くの人々の健康を促進できることにつながるのではないかと考えています。

看護についての学びを深めている過程で、やりがいを感じることも多いですが、時に不安や悩みを感じることもあります。特に、実習では自分の知識や技術が不十分であるために、分からないことやできないことが多く、悩み、苦しむこともありました。しかし、先生方が知識や技術の指導はもちろんのこと、精神面のサポートもしてくださったため、苦悩を乗り越え、看護についてより深い学びを得ることができました。このように、熱心なご指導と心強いサポートをしてくださる先生方がいることも、東京家政大学看護学科の魅力であると感じています。

私は、看護を目指す者としてまだまだ未熟ではありますが、将来は患者さんやご家族の身体と心に常に寄り添い、その人らしさを支える看護が行えるように、今後もより一層、勉学に努めていきたいです。

● 看護学科での学び



看護学科 4 年 松村 朱玲

私が本学を志望した理由は、高校生から目指していた助産師の資格を 4 年間で取得できる点、専門的な知識・技術・態度を学べる施設や設備が備わっている点、自宅から通うことができる点、そして大学最寄りの稲荷山公園駅や大学構内の四季折々を感じられる環境に魅力を感じたためです。

看護学科では、日々の授業やグループワーク、演習、そしてその学びを活かすことのできる実習があります。実習は、看護職を目指す者としての知識・技術・態度をさらに養う機会です。また、患者さん1人ひとりの目標を達成あるいは目標に近付ける支援ができたときや患者さんの笑顔を拝見したり、感謝の言葉を頂戴したときは看護のやりがいに繋がりました。さらに、看護ボランティアサークルや緑苑祭では、他大学や他学科では機会の少ない地域の人々との交流が多いことも看護学科ならではの魅力です。

夢であった助産師課程に進み助産学を学ぶことができたこと、共に看護職を志す素敵な仲間と切磋琢磨しながら4年間を過ごすことができたこと、患者さんをはじめ、先生方や家族、友人など周囲の方々に支えられていることに気付け、感謝の気持ちをもつことの大切さを学ぶなど、一人の人間としても大きく成長できたことは私の財産です。これからも本学看護学科で学んだことや周囲の人々への感謝を忘れず、看護を必要としている人に個別性に応じた看護を提供できるよう自己研鑽を継続していきます。

【教員による地域貢献・研究活動】

<「かせい森の産後ケアサロン」の産後ケア事業>

本学附置施設として2019（令和元）年度に開設された「かせい森の産後ケアサロン」では、母性看護学・助産学領域の教員が、助産師とともに産後1年未満の母子にデイサービス（育児相談、乳房ケア、授乳指導、沐浴等）を提供しています。また、ベビーマッサージなどの母子とその家族が参加できるイベントも開催し、好評を得ています。看護学科の実習施設としても活用しています。

<学科シンポジウム>

狭山緑苑祭の一環として学科シンポジウムを開催し、看護の魅力や健康について情報発信しています。

学科シンポジウム開催状況

回	開催年度	狭山緑苑祭		学科シンポジウム		
		開催日時	開催日時	テーマ	司会	講師・シンポジスト
第1回	2014 (平成26)	10月26日(日) 13:00~16:30	10月26日(日) 10:00~11:30	未来を拓く看護の力 ~これからの看護を 語り合おう~	今留忍	①阿部淳子(埼玉県助産師会 所沢地区長 助産師) ②本橋千恵美(埼玉県狭山保健所 副所長 保健師) ③若林福美(武蔵野赤十字病院 看護部長 看護師)
第2回	2015 (平成27)	10月25日(日) 10:00~16:30	10月25日(日) 10:00~12:00	社会で活躍する女性から 生き方を学ぶ ~女性の活躍する職業~	立石和子 亀山直子	基調講演:おたわ史絵(内科医、作家) シンポジスト:①逢坂麗(防衛省航空幕僚監部 パイロット) ②小澤麻美(慶応義塾大学看護学部看護学科 基礎看護学助教、元キャンペンアデント)
第3回	2016 (平成28)	10月23日(日) 10:00~17:30	10月23日(日) 9:30~11:00	女性のライフステージに おける健康支援	大澤栄	①鈴木幹子(本学看護学科 母性看護学・助産学領域教授)「女性のライフステージと健康」 ②西巻佳子(武蔵野赤十字病院 乳がん看護認定看護師)「乳がんとう付き合い生活していくか」 ③原川安喜子(はらかわ助産院院長 助産師)「更年期と上手に付き合っていくには」
第4回	2017 (平成29)	10月29日(土) 10:00~15:30	11月18日(土) 11:00~12:30	視覚・聴覚障がい者と 補助犬(盲導犬・聴導犬) の日常生活を知ろう	鳴海喜代子	①公益財団法人日本盲導犬協会 ②盲導犬ユーザー ③一般社団法人日本聴導犬推進協会 ④聴導犬ユーザー
第5回	2018 (平成30)	10月28日(日) 10:00~16:30	10月28日(日) 10:15~11:45	その人らしく「生活する」を 総合的に支援する看護の 創造~病気を抱えて生活 する人を支援する看護とは	伊関敏男	①柳屋圭子(戸田市社会福祉事業団 健康福祉の社 地域支援課サービス) ②中野瑞枝(ライフプランニングセンター 模擬患者ボランティア) ③本学看護学科学生
第6回	2019 (平成31・ 令和元)	10月27日(日) 10:00~16:00	10月27日(日) 13:00~15:00	今日から災害に備えよう ~福島・相馬での 支援活動から考える~	伊関敏男	基調講演:米倉一磨(NPO相双に新しい、精神科医療保健福祉システムをつくる会/相馬 広域こころのケアセンターセンター長)「災害看護と心のケア~福島『なごみ』の挑戦~」 シンポジスト①渡辺道雄(狭山市市民部危機管理課長) ②滋野界(日本赤十字看護大学大学院 共同災害看護学専攻:DNGL大学院生) ③齋藤麻子(本学看護学科 精神看護学領域講師)
第7回	2020 (令和2)	10月25日(日) 10:00~16:00 (オンライン)				コロナ禍のため開催せず
第8回	2021 (令和3)	10月24日(日) 10:00~16:00 (オンライン)	10月23日(土) 13:00~14:30 (オンライン)	こころのセルフケア ~"マインドフルネス"を 体験してみよう!~	安達祐子	①瀧田結香(本学看護学科 成人看護学領域講師)「マインドフルネスとは何か?どんな効果があるのか?どんな領域で行われているのか?」 ②佐藤寧子(慶應義塾大学SFC研究所 上席所員/元国立病院機構東京医療センター リエゾン精神看護専門看護師)「医療・看護におけるマインドフルネスの実践」 ③朴順禮(慶應義塾大学看護医療学部 講師)「マインドフルネスの実践ワーク」
第9回	2022 (令和4)	10月23日(日) 10:00~16:00	10月22日(土) 10:30~12:00 (オンライン)	母子の自律を支える 地域の子育て力 ~お母さんと赤ちゃんが 笑顔で過ごせるために~	杉田理恵子	①澁木弥生(所沢市子育て世代包括支援センターからがも 助産師)「地域の子育てを支援する助産師の仕事」 ②阿部淳子(開業助産師 助産院院長)「地域で寄り添う助産師たち~開業助産師の今」 ③城戸亜矢子(かせい森のクリニック産後ケアサロン 助産師)「地域と家庭の間を支える産後ケア」
第10回	2023 (令和5)	10月22日(日) 10:00~16:00	10月21日(土) 10:30~12:00	忍者から学ぶ健康の秘訣	藤井かし子	①小森照久(三重大学 名誉教授 精神科医師)「忍者呼吸・印によるストレス・不安の緩和」 ②瀧元誠樹(札幌大学地域共創学群スポーツ文化専攻 教授)「健康とは何か?忍者の叡知から問い直す」 ③古市卓也(羽衣国際大学人間生活学部食物栄養学科 教授)「忍者の食と栄養」 ④田村智則(福島県二本松市復興住宅自治会長)「高齢者サロンで実施している忍者体操」

<地域住民の学習>

本学では、子どもから高齢者まで幅広い年代の方々に対して、さまざまな学習機会を提供しています。看護学科教員は、専門性を活かして講師を務めています。

● 子ども大学さやま・いるま

入間市・狭山市在住の小学4~6年生に、楽しく看護を学んでもらっています。

- ・2014（平成26）年度「体から聴こえるこの音は何か? / 手はきれいかな?」今留忍・安達祐子・谷岸悦子・長島文子

- ・ 2015（平成27）年度「看護師の仕事体験しよう！」谷岸悦子・今留忍・安達祐子・長島文子・横森久美子・鈴木幹子・西田陽子・玄番千恵巳
- ・ 2019（令和元）年度「防災カフェ～防災についての正しい知識を『防災カルタ』と心肺蘇生法体験で楽しく学ぼう！！～」齋藤正子
- ・ 2022（令和4）年度「看護のお仕事、学んでみよう！～赤ちゃんの身体の音を知ろう&お世話の体験～」岩田みどり・藤田藍津子

● ひらめき☆ときめきサイエンス

大学で行っている最先端の科研費の研究成果について、小・中・高校生子どもたちが、直に見る、聞く、ふれることで、科学のおもしろさを感じてもらおうプログラムです。

- ・ 2015（平成27）年度「看護師のキャリアを発揮する場面～災害時、緊急場面での看護の役割を体験してみよう～」立石和子・谷岸悦子・齋藤麻子 他
- ・ 2016（平成28）年度「看護師を体験してみよう！～手術を受けた患者さんへの看護や災害時の看護」立石和子・谷岸悦子・齋藤麻子 他
- ・ 2017（平成29）年度「ナースを体験～手術後と子どもの看護をする看護師になってみよう！」立石和子・藤田藍津子

● 公開講座

本学狭山キャンパスにある地域連携推進センターは、地域とともに「生涯学習社会」を目指し、「地域課題解決に向けた連携・協力関係の構築」を目的に、公開講座を開催しています。看護学科教員は、公開講座の講師として地域の方々の学び直しを支援しています。

- ・ 2015（平成27）年度「看護師資格を持っているあなたのために～潜在看護師さんの再就職支援セミナー」今留忍、安達祐子、谷岸悦子、田原美香、齋藤正子
- ・ 2021、2022（令和3、4）年度
「まさかの災害！？ ころの健康を保つには」齋藤麻子
「コロナ禍でのイライラや憂鬱解消のために～日常生活でできるマインドフルネスで元気になろう～」瀧田結香
- ・ 2023（令和5）年度「こころとからだにアプローチ!!助産師による大人のためのペリネケアレッスン～骨盤底筋の使い方をマスターしてより美しくより健康に～」五十嵐由依子

<看護職の継続教育>

実習施設等の看護職を対象に、実践や研究に関する指導・助言を行っています。

- 埼玉県保健所や市町村保健師に対する研修の講師、入間市健康福祉センターが行う地域診断に対する支援（2014年度～現在）：山口佳子
- 国立障害者リハビリテーションセンター病院 看護師に対する研究・学会発表の指導・助言（2017年度～現在）：太田美帆
- 市立青梅総合医療センター（旧 青梅市立総合病院）
・ 看護師に対する災害看護研修会の講師（2019年度）：齋藤麻子
・ 看護師に対する研究指導・助言（2021年度～現在）：藤田藍津子、瀧田結香、杉田理恵子
- 所沢ロイヤル病院 看護師に対する研究・学会発表指導・助言（2022年～現在）：根岸貴子

<新型コロナウイルス感染症対策に係る保健所支援>

本学に隣接する埼玉県狭山保健所や東京都多摩府中保健所において、新型コロナウイルス感染症で自宅療養している方の健康観察などを行いました（2020年12月～2023年1月）：山口佳子、一柳由紀子、松浦早希

<その他の地域貢献>

武蔵野赤十字病院の臨床研究倫理審査委員会の委員、埼玉県母子保健運営協議会をはじめとする自治体の各種委員、狭山市の精神障がい者福祉の拠点として活動している社会福祉法人こぶし福祉会の評議員、学会の代議員や委員、各種研修の講師、自治体主催の市民向け講座の講師、専門性を活かしたボランティア活動など、さまざまな形で地域に貢献しています。

<東京家政大学 研究ブランディング事業／総合研究プロジェクト>

「ひとの生（Life）を支える学」を教育・研究する総合大学」という本学の特色を明確化するため、全学的な「研究ブランディング事業」が2018（平成30）年度に開始され、2019（平成31）年度からは「総合研究プロジェクト」として継続しています。看護学科教員の藤田藍津子・玄番千恵巳・今留忍は、人文学部教育福祉学科 田中恵美子准教授とともに2018～2020（平成30～令和2）年度に「子育て世代の健康な生を支える学～親になるプロセスを支える学の構築～」に取り組み、狭山市・入間市の子育て世代を対象に、子育てへの思いと子育て支援に関する本学への期待を明らかにしました。

<東京家政大学 女性未来研究所>

女性未来研究所は、建学の精神である「自主自律」、生活信条である「愛情・勤勉・聡明」と長年にわたる女子教育の伝統に基づく本学固有の女性研究を行うとともに、その成果を社会に広く公表し還元することで、多様性を尊重する共生社会の実現と男女共同参画社会における女性の活躍を支援することを目的としています。看護学科の教員は「女性未来研究所」の兼任研究員として、以下の研究を行いました。

- ・2014～2016（平成26～28）年度「男女共同参画で行う地域防災・減災」齋藤正子・小櫃智子（子ども支援学科）
- ・2017～2019（平成29～31）年度「生涯を通じた女性の健康づくり～未就学児の母親に焦点をあてて～」大久保麻矢・米澤純子・井上直子
- ・2021～2022（令和3～4）年度「大学を拠点として取り組む子育て支援～前向き子育てプログラムの有効性の検証～」藤田藍津子・玄番千恵巳・田中恵美子（教育福祉学科）・今留忍

<埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)>

埼玉東上地域大学教育プラットフォーム（TJUP）とは、埼玉県の東武東上線沿線および西武線沿線の「大学」「自治体」「企業」が連携するプラットフォームです。「地元で生まれ、地元で育ち、地元で生きていく若い世代への支援」というビジョンのもと、2018（平成30）年に発足しました。看護学科教員の大野順子・山口佳子・北澤健文・一柳由紀子は、TJUPの一環として、2018～2022（平成30～令和4）年度に駿河台大学との共同研究「女性の飲酒と健康について」に取り組み、女性の飲酒について調査を行い実態と課題を明らかにした上で普及啓発用リーフレットを作成し、入間市、狭山市、所沢市の住民に配布しました。

<教育方法・教材の開発研究>

前述したように、東京家政大学「教育開発推進事業（学長裁量経費）」を積極的に取得し、教育方法や教材の研究・開発を行っています。また、文部科学省大学改革推進等補助金「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」や本学ヒューマンライフ支援機構のプロジェクト研究助成費を獲得し、デジタルトランスフォーメーション導入型看護教育の研究に取り組んでいます。

<学会表彰>

● 成人看護学領域 平田浩三(2018年度)

Albert Nelson Marquis Lifetime Achievement Award を受賞

アルバート・ネルソン・マーキス生涯功労賞は、業界や専門分野における功績や卓越性が実証された人物に与えられる賞です。世界で最も権威ある人名録とされているMarquis Who's Who in the Worldに連続掲載された人物のうち、5%未満しか獲得できない、たいへん名誉ある賞です。平田教授は、動脈硬化に関する長年の研究実績を評価され、2018年に受賞しました。

● 公衆衛生看護学領域 山口佳子(2018年度)

「県・保健所・大学の協働による保健所実習指導者研修会」が「日本公衆衛生看護学会 学術奨励賞(教育・実践部門)」を受賞

保健師課程選択制導入に伴う新たな保健所実習の開始に向け、埼玉県保健所保健師を対象に実態調査を行い、分析結果に基づき現場のニーズに即した実践的な実習指導者研修会を3年間にわたって開催しました。埼玉県の本庁と保健所の保健師4名、山口教授を含む県内看護系大学教員3名が協働して受賞しました。

● 成人看護学領域 瀧田結香(2020年度)

「肺動脈性肺高血圧症患者における身体活動とその影響要因」が日本循環器看護学会「奨励論文賞」を受賞

成人看護学領域の瀧田講師が、研究論文「肺動脈性肺高血圧症患者における身体活動とその影響要因」で、2020年度日本循環器看護学会「奨励論文賞」を受賞しました。

● 小児看護学領域 倉石佳織(2023年度)

「コーエン症候群の患者・家族と研究者のコラボレーションによる家族会支援の実際」が日本家族看護学会「家族看護グッドプラクティス賞」を受賞

倉石助教は家族会と共に、コーエン症候群に対する社会的認知の向上や家族同士のつながりの維持・促進に貢献してきました。この取り組みが高く評価され、家族看護の実装や普及にかかる顕著な実践活動を行っている団体や個人を顕彰する「家族看護グッドプラクティス賞」に選ばれました。

<日本学術振興会 科学研究費助成事業(科研費)>

科研費に採択され、看護学科教員が研究代表者として本学在職中に取り組んだ研究課題は以下の通りです。また、研究分担者として実施した研究課題は31件ありました。

看護学科教員 科学研究費助成事業 採択一覧（研究代表者）

氏名	研究種目	研究課題名	研究期間	
			開始	終了
立石 和子	基盤研究(C)	看護実践能力促進のためのキャリアプランニングに必要な教育の検証	2013	2016
鈴木 幹子	基盤研究(C)	父親としてのコンピテンシーを高めるための育児支援システムの構築	2013	2015
大久保 麻矢	若手研究(B)	発達障がい児の母親の口述的ライフヒストリー ～レジリエンスに着目して～	2013	2015
齋藤 正子	研究活動スタート支援	災害により長期の避難生活を余儀なくされる看護支援モデルの構築	2014	2015
谷岸 悦子	基盤研究(C)	汎用的能力を基盤とした災害看護実践力を育む看護基礎教育システム構築と検証	2015	2019
鈴木 幹子	基盤研究(C)	産後クライシス予防に向けて父親のコンピテンシー強化に着目した育児支援システム構築	2016	2020
根岸 貴子	基盤研究(C)	夫における認知症介護準備態勢の自己評価式尺度の開発	2016	2019
立石 和子	基盤研究(C)	看護実践者のコンピテンシーと大学教員に求められるコンピテンシーの関連性の究明	2017	2020
齋藤 正子	基盤研究(C)	避難を余儀なくされた療養者に対する災害時相互協力を用いた看護支援モデルの構築	2017	2020
瀧田 結香	挑戦的研究(萌芽)	マインドフルネスを基盤とした肺高血圧症患者のレジリエンス強化プログラムの開発	2017	2021
有澤 舞	若手研究(B)	周術期看護における視線動きの分析結果より患者観察のための教授方法の構築	2017	2020
藤田 藍津子	若手研究(B)	放課後等デイサービスの看護師役割に関する研究	2017	2021
大久保 麻矢	基盤研究(C)	発達障害児の父親の「診断」を軸とした人間関係の変化を探る ～母親の孤立との関係性～	2018	2021
霜越 多麻美	若手研究	組織学習に着目した地域組織活動支援ガイドの作成	2019	2022
植村 直子	若手研究	ケアパリティの視点による保健師のコミュニティグループ支援ガイドラインの開発	2020	2023
倉石 佳織	若手研究	コーエン症候群患者のPreventive Healthcare Modelの開発	2020	2023
瀧田 結香	基盤研究(B)	自己管理アプリを用いた肺高血圧症のマインドフルネス/セルフマネジメントプログラム	2021	2025
松江 なるえ	基盤研究(C)	報告行動に関するハイブリッド型教育プログラム開発	2021	2024
藤田 藍津子	基盤研究(C)	「放課後等デイサービス」の看護師支援システム開発と評価	2021	2023
藤井 かし子	基盤研究(C)	足・喉・口腔の状態に焦点を当てた健康管理によるフレイル対策の効果と検証	2023	2025

<その他競争的研究費>

以上の他にも、厚生労働科学研究費補助金、学会の研究助成金などの研究費を獲得し、看護の教育や実践に役立つ研究に取り組んでいます。

[研究支援プロジェクトチーム]

看護学科教員の研究活動を支援するため、2022（令和4）年度に看護学科として研究支援プロジェクトチームを発足させました。研究計画書作成や倫理審査受審に関する若手教員に対する個別支援、学科主催FD研修会の企画・実施などを行っています。





資料

【年 表】

年 度	看 護 学 科	大 学	社 会
2014 (平成26)	<ul style="list-style-type: none"> ●看護学部看護学科を開設 ●1年次の授業開始:「基礎看護の実践Ⅰ」開始 ●新入生に対し「フレッシュマンセミナー」(1泊2日)と「導入教育」実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●狭山キャンパスに看護学部看護学科、子ども学部子ども支援学科、かせい森のクリニック、かせい森のおうち(保育所)を開設 ●地域連携協力推進センターを地域連携推進センターに改称 ◎学修・教育開発センター(CRED)を板橋に開設 	
2015 (平成27)	<ul style="list-style-type: none"> ●2年次の授業開始:実習「基礎看護の実践Ⅱ」開始 ●教育強化費により2年生を対象に「解剖見学実習」実施(～2019年度) 		
2016 (平成28)	<ul style="list-style-type: none"> ●3年次の授業開始:小児、母性、成人、老年、精神、在宅の領域別実習開始 ●保健師課程、助産師課程の選抜試験を初めて実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●狭山キャンパスにかせい森の放課後等デイサービス(障害児通所支援施設)を開設 	<ul style="list-style-type: none"> ●10月 保健師助産師看護師学校養成所指定規則を改正公布(平成30年度入学生から適用)
2017 (平成29)	<ul style="list-style-type: none"> ●実習用ユニフォームを変更 ●4年次の看護師課程、助産師課程、保健師課程の授業開始:看護師課程の統合実習、助産師課程の実習、保健師課程の実習開始 ●1期生が看護師国家試験、保健師国家試験、助産師国家試験を受験 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学修マネジメントシステムmanabaを導入 ●2018年3月 狭山キャンパス6号館竣工 	
2018 (平成30)	<ul style="list-style-type: none"> ●健康科学部看護学科に改称 ●カリキュラム改正 ・科目の名称、配当時期等を変更 ★国家試験対策チームが学園貢献賞を受賞 	<ul style="list-style-type: none"> ●看護学部を健康科学部と改称し、リハビリテーション学科を狭山キャンパスに開設 	
2019 (平成31・令和元)	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍で一部の学生は「基礎看護の実践Ⅰ・Ⅱ」の現地実習が中止となり、学内で代替実習 	<ul style="list-style-type: none"> ○板橋キャンパスで授業時間を1時限90分から100分に変更 ○自校教育科目「スタートアップセミナー自主自律」を家政学部・人文学部で開始 ●かせい森のクリニックに内科、循環器内科を開設 ●かせい森の産後ケアサロンを開設 ◆コロナ禍で学位授与式を中止 	<ul style="list-style-type: none"> ○2020年1月 新型コロナウイルス感染症を指定感染症・検疫感染症に指定 ○2020年3月 新型コロナウイルス感染症を新型インフルエンザ等感染症特別措置法の対象疾患に位置づけ
2020 (令和2)	<ul style="list-style-type: none"> ●看護臨床講師制度の開始 ●新型コロナウイルス感染予防のため教育活動を中止・変更 ・「フレッシュマンセミナー」中止、「導入教育」も一部を除き中止 ・学科教育強化費による「解剖見学実習」を中止、動画視聴と書籍配布で代替 ・現地実習の中止が相次ぎ、学内やオンラインで代替実習 ★日本看護学教育評価機構による看護学教育評価を受審し適合認定(認定期間:2021年4月～2028年3月) 	<ul style="list-style-type: none"> ●狭山キャンパスで授業時間を1時限90分から100分に変更 ●かせい森のクリニックに訪問看護部門を開設 ●産後ケアサロンをかせい森のクリニック産後ケア部門に改組 ◆コロナ禍で入学式を中止 フレッシュマンセミナー・導入教育も原則中止 4月は授業中止、5～9月はオンライン授業とし、10月から対面授業を再開 学位授与式は学生本人のみ会場参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○4～5月 緊急事態宣言を発令 ○東京オリンピック開催を延期 ●10月 保健師助産師看護師学校養成所指定規則を改正公布(令和4年度入学生から適用) ○2021年1月 緊急事態宣言を発令 ○2021年2月 新型コロナウイルス感染症を感染症法の新型インフルエンザ等感染症に位置づけ
2021 (令和3)	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍で現地実習中止が相次ぎ、学内やオンラインで代替実習 ●「フレッシュマンセミナー」を半日に短縮して再開 「導入教育」もオンラインを活用して再開 ●学科教育強化費により、3年次実習終了後にGPS-Academicとフォローアップガイドスを実施(～現在) ★文部科学省大学改革推進等補助金「ウイズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」に採択され補助金獲得 	<ul style="list-style-type: none"> ◎創立140周年 ◎新たなKマークを作成 ◆入学式は学生本人のみ会場参加、関係者にはオンライン配信 学位授与式は学生本人のみ会場参加、保証人各1名のみ学内会場で動画配信、他の関係者にはオンライン配信 	<ul style="list-style-type: none"> ○4～9月、2022年1～3月 まん延防止等重点措置を実施 ○7～8月 東京オリンピックを無観客開催
2022 (令和4)	<ul style="list-style-type: none"> ●カリキュラム改正 ・指定規則改正をふまえて実習科目等を充実 ・1年次に「健康・生活・地域実習」導入 ・全学共通コア科目として「スタートアップセミナー自主自律」「キャリアデザイン」導入 ★「ヘルスアセスメントの技術」がGOOD授業賞受賞 ■看護学科同窓会「緑看会」設立、第1回総会・交流会開催 	<ul style="list-style-type: none"> ◎対面授業を実施。一部科目については教育効果の観点からメディア授業を実施。 ◎全学共通「東京家政大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を開設し、基幹科目として「データサイエンス基礎」を開講 ◎「GOOD授業賞」制度を創設 ◆入学式は学生本人のみ会場参加、関係者にはオンライン配信。 学位授与式は学生本人および保証人各1名のみ会場参加、関係者にはオンライン配信 	<ul style="list-style-type: none"> ○2022年1月～2023年1月 新型コロナウイルス感染症 オミクロン株による感染拡大
2023 (令和5)	<ul style="list-style-type: none"> ●「スタートアップセミナー自主自律」を看護学科とリハビリテーション学科の合同で開講 ●次年度から変更する実習用ユニフォームのデザインを決定 ★「看護研究Ⅱ」がGOOD授業賞受賞 ■緑看会 第2回総会・交流会開催 	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども学部を子ども支援学部へ改称 ◆入学式は学生本人および保証人各1名のみ会場参加、関係者にはオンライン配信 	<ul style="list-style-type: none"> ○5月 新型コロナウイルス感染症の位置づけを感染症法の5類感染症に変更

【看護学科 専任教員】

凡例： 特任教授 教授 准教授 講師 期限付助教 看護臨床講師

領域	2014 (平成26)年度	2015 (平成27)年度	2016 (平成28)年度	2017 (平成29)年度	2018 (平成30)年度	2019 (平成31・令和元)年度	2020 (令和2)年度	2021 (令和3)年度	2022 (令和4)年度	2023 (令和5)年度	
基礎看護学	今留 忍								酒井 博子		
	谷岸 悦子				谷岸 悦子						
	安達 祐子				藤森 京子				柳田 真季子		
	長島 文子				松江 なるえ						
	横森 久美子						角替 由規			柳橋 正智	
	柳田(大津) 真季子										
小児看護学	岩田 みどり										
	藤田 藍津子										
	堀江 久樹	両角 理恵							倉石 佳織		
母性看護学 助産学	鈴木 幹子										
	稲荷 陽子										
	大久保 麻矢								荻田 珠江		
	西田 陽子		杉田 理恵子								杉田 理恵子
	玄場 千恵巳				玄番 千恵巳						
成人看護学	井上 直子				五十嵐 由依子						
	平田 浩三										
	立石 和子				安達 祐子						
	太田 美帆				太田 美帆						
	西久保 秀子										
	有澤 舞				有澤 舞				森田 夏代		
						瀧田 結香		小野 智恵美			
村上 希				大黒 えりか							
老年看護学	鳴海 喜代子				根岸 貴子						
	亀山 直子								宮野 公恵		鈴木 晶子
	大西 知子						内山 裕美		佐藤 恵美		
精神看護学	大澤 栄				伊関 敏男						
	大澤 亜貴子						南迫 裕子		川内 健三		
	齋藤 麻子										
在宅看護学	田原 美香								松下 祥子		藤井 かし子
	齋藤 正子								霜越 多麻美		
	里 英子										
公衆衛生看護学	山口 佳子										
	野山 修				北澤 健文						
	松下 裕子				大野 順子						
	米澤 純子				植村 直子				一柳 由紀子		
	田口(関口) 美保				一柳 由紀子						
									松浦 早希		山崎 由美子
									法華津 ともみ		名取 晴美
学部長	今留 忍								鈴木 幹子		
学科長	安達 祐子				鈴木 幹子				山口 佳子		

1年	A	担任	立石 和子	西田 陽子	谷岸 悦子	岩田 みどり	藤田 藍津子	安達 祐子	根岸 貴子	谷岸 悦子	玄番 千恵巳	荻田 珠江
	副担任	西田陽子・齋藤麻子・齋藤正子・有澤舞・玄番千恵巳	太田 美帆	西久保 秀子	太田 美帆	玄番 千恵巳	亀山 直子	有澤 舞	川内 健三	森田 夏代	大野 順子	
B	担任	鈴木 幹子	米澤 純子	田原 美香	大澤 栄	大澤 亜貴子	大久保 麻矢	西久保 秀子	齋藤 麻子	酒井 博子	一柳 由紀子	
	副担任	大久保麻矢・太田美帆・大澤亜貴子・関口美保・長島文子	齋藤 麻子	大久保 麻矢	杉田 理恵子	藤森 京子	山口 佳子	植村 直子	宮野 公恵	岩田 みどり	藤田 藍津子	
2年	A	担任	立石 和子	亀山 直子	谷岸 悦子	岩田 みどり	藤田 藍津子	安達 祐子	根岸 貴子	谷岸 悦子	玄番 千恵巳	荻田 珠江
	副担任		田原 美香	齋藤 正子	西久保 秀子	太田 美帆	玄番 千恵巳	安達 祐子	霜越 多麻美	川内 健三	森田 夏代	
B	担任	鈴木 幹子	米澤 純子	田原 美香	大野 順子	藤森 京子	大久保 麻矢	西久保 秀子	齋藤 麻子	酒井 博子	小野 智恵美	
	副担任	大久保 麻矢	齋藤 麻子	大久保 麻矢	杉田 理恵子	稲荷 陽子	山口 佳子	植村 直子	宮野 公恵	根岸 貴子	谷岸 悦子	
3年	A	担任	立石 和子	亀山 直子	谷岸 悦子	岩田 みどり	藤田 藍津子	安達 祐子	根岸 貴子	谷岸 悦子	玄番 千恵巳	荻田 珠江
	副担任		藤田 藍津子	齋藤 正子	西久保 秀子	太田 美帆	玄番 千恵巳	伊関 敏男	霜越 多麻美	川内 健三	森田 夏代	
B	担任	鈴木 幹子	米澤 純子	田原 美香	大野 順子	藤森 京子	大久保 麻矢	西久保 秀子	齋藤 麻子	酒井 博子	小野 智恵美	
	副担任	大澤 亜貴子	齋藤 麻子	大久保 麻矢	杉田 理恵子	稲荷 陽子	山口 佳子	藤森 京子	西久保 秀子	齋藤 麻子	谷岸 悦子	
4年	A	担任	立石 和子	亀山 直子	谷岸 悦子	岩田 みどり	藤田 藍津子	安達 祐子	根岸 貴子	谷岸 悦子	玄番 千恵巳	荻田 珠江
	副担任		藤田 藍津子	齋藤 正子	西久保 秀子	太田 美帆	玄番 千恵巳	伊関 敏男	霜越 多麻美	川内 健三	森田 夏代	
B	担任	鈴木 幹子	米澤 純子	田原 美香	大野 順子	藤森 京子	大久保 麻矢	西久保 秀子	齋藤 麻子	酒井 博子	小野 智恵美	
	副担任	大澤 亜貴子	齋藤 麻子	大久保 麻矢	杉田 理恵子	稲荷 陽子	山口 佳子	藤森 京子	西久保 秀子	齋藤 麻子	谷岸 悦子	

【理事長・学長】

理事長	清水 司				菅谷 定彦				
学長	川合 貞子			山本 和人			井上 俊哉		

【狭山キャンパスマップ】



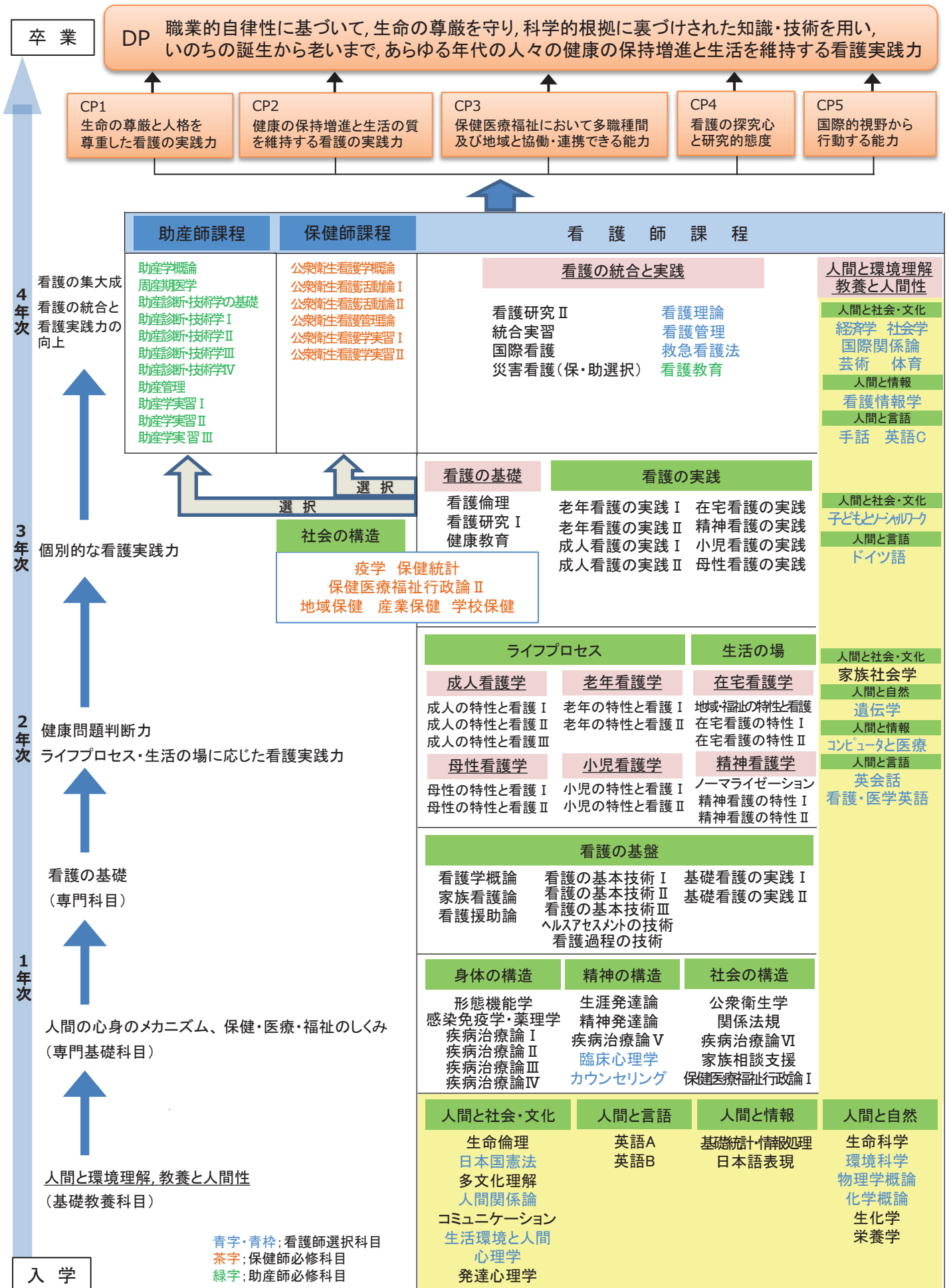
4号館	
3階	在宅・公衆衛生看護実習室
2階	母性・小児看護実習室 助産実習室
1階	基礎看護実習室



5号館	
3階	精神看護実習室
1階	成人・老年看護実習室



【カリキュラムツリー(平成26～29年度入学生)】



【カリキュラムツリー(平成30年度～令和3年度入学生)】

<p>【養成する人材】 科学的根拠に基づいた知識・技術と生命の尊厳を守る態度を有し、あらゆる年代における人々の健康の維持増進と生活の質の維持に貢献できる能力を有する。</p>	<p>【養成する人材像】 看護師：人々の多様なニーズに対応できる看護の専門知識を有し、高い支援ができる看護実践者である。 保健師：地域活動・健康教育・保健指導等の看護活動を通して、地域社会で生活する人々の疾病予防・健康課題・問題を組織的に解決・支援できる公衆衛生看護の実践者である。 助産師：妊娠・出産・産褥期にある女性と胎児・新生児が自然で安全に経過する助産ケアを提供できる看護実践者。若くは産期医療システムにおける助産業務の遂行者である。</p>
<p>アドミッションポリシー</p> <ol style="list-style-type: none"> 看護に興味・関心のある人 他者の話をしっかりと聞き、理解できる人 自分の考えを表現できる人 問題意識を持ち、将来に向けた主体的に取り組むことができる人 健康的な生活習慣を心がけている人 	<p>カリキュラムポリシー</p> <ol style="list-style-type: none"> 豊かな教育・コミュニケーション能力を有し、人間的成長を促し、自己実現の視点から理解し、科学的にその視点から看護の重要性を認識し、看護の対象者や環境で生活する人々、文化・人間と自然・人間と社会・文化・人間と自然・人間と文化・文化・人間と自然・人間と文化に区別した看護教育科目を配置する。 看護学領域の学習の基礎となる基礎知識・基礎能力を身につけること、身体的健康を維持し、心身の健康を維持すること、社会の構造と役割を認識した専門基礎科目を配置する。 保健医療福祉チームのメンバーとして、連携・協働を促すことから、地域住民の健康の維持増進及び障壁の予防ができるよう、「健康教育」「保健医療福祉行政論」を2年次に配置する。 学内で修得した看護の基礎に必要知識・技能・態度を身に付ける場として、「対象者及び対象者を取り巻くさまざまな人々と良好な関係を築きながら、対象者が望む生活が実現できるように、創意工夫した看護実践を推進できる」という意図を配置する。 看護とは「老い、自己の看護を明確にすることや、質の高い看護を提供するためのどういった行動がとれるべきか」といったポイントが広がることと捉えられ、看護能力の修得を図るために、4年次に「統合実習」「看護研究」「看護管理」等を配置する。また、諸外国での保健医療活動等、看護が求められる様々な場を学ぶために、「国際看護」等を配置する。
<p>1年次</p> <p>看護職者としての基礎を築く</p>	<p>生命科学 人間関係論 コミュニケーション論 心理学 発達心理学 生命科学 神経科学 物理医学論 化学概論</p> <p>基礎統計・情報処理 メンタルヘルスケア 日本語概論</p> <p>英語A 英語B</p> <p>形態解剖学 免疫学 疾病治療論Ⅰ 疾病治療論Ⅱ</p> <p>公衆衛生学 ポラテンティブ活動論</p> <p>看護学概論 看護援助論 看護の基本技術Ⅰ 基礎看護の実践Ⅰ</p>
<p>2年次</p> <p>疾病と看護方法の基礎知識を学修する</p>	<p>家族社会学 環境科学 遺伝学</p> <p>基礎看護学 看護・医学英語</p> <p>医療英会話 看護学英語</p> <p>生涯発達論 疾病治療論Ⅴ 臨床心理学 薬理学概論Ⅵ 健康教育</p> <p>看護の基本技術Ⅲ 看護過程の技術</p> <p>基礎看護の実践Ⅱ</p>
<p>3年次</p> <p>看護実践を学修する</p>	<p>保健統計 疫学 保健医療福祉行政論Ⅱ</p> <p>看護倫理 看護研究Ⅰ</p> <p>母性看護学概論 小児看護学概論 成人看護学概論 老年看護学概論 在宅看護学概論 精神看護学概論</p> <p>母性看護の実践 小児看護の実践 成人看護の実践Ⅰ 老年看護の実践Ⅰ 在宅看護の実践 精神看護の実践</p>
<p>4年次</p> <p>看護の統合と看護実践力の向上を図る</p>	<p>国際関係論 国際関係論 国際関係論 国際看護</p> <p>看護情報学</p> <p>中国語</p> <p>看護管理 看護教育論 看護理論 国際看護 看護研究Ⅱ</p> <p>公衆衛生看護学実習Ⅰ・公衆衛生看護学実習Ⅱ 公衆衛生看護学実習Ⅲ 公衆衛生看護学実習Ⅳ 公衆衛生看護学実習Ⅴ 公衆衛生看護学実習Ⅵ 公衆衛生看護学実習Ⅶ 公衆衛生看護学実習Ⅷ 公衆衛生看護学実習Ⅷ</p>
<p>ディプロマポリシー</p>	<p>【5つの能力】 ① 生命の尊厳と人格を尊重した看護の実践力 ② 健康の維持増進と生活の質を維持する看護の実践力 ③ 保健医療福祉において多職種間および地域・保健・連携できる能力 ④ 看護の経営と研究の姿勢 ⑤ 国際的視野から行動する力</p> <p>知識・技能 1. 人間関係を基礎として、健康に關与する看護の基本が身に付いている。 2. 援助人間関係を基礎に人の誕生から老い死までの過程における健康課題に對して取組むことができる。 3. 健康の保持増進、疾病予防、保健指導からの回復に向けて看護が、専門的知識・技術を用いて、科学的根拠に基づき実施できる。 思考力・判断力・実行力 4. 看護の対象である人を身体的・精神的・社会的な側面を統合して理解する基礎力が身に付いている。 5. 人の自由と権利を尊重し、いかなる場合でも看護職者としての役割を倫理的に判断し、行動できる。 6. “看護”を意味的に問い掛け、自ら発見した看護に関する課題に対して研究的に取り組み、看護の現象を科学的に追求する姿勢を継続できる。 主体性・多様性・協働性 7. 看護の対象である人を思いやる、人間性をももち、社会と積極的に関わりあう高いコミュニケーション能力を身に付けている。 8. 質の高い医療の提供に向けて地域等の協力を取り、多職種間連携による役割を果たすことができる基礎力をもっている。 9. 諸外国の医療・看護の課題、看護事情に関心をもち、専門職者として国内で活躍するための基礎力をもっている。</p>
<p>就職先</p>	<p>国立病院 本邦医療機関 民間病院 医療センター 訪問看護センター 地域包括ケアセンター ターナー 市町村 都道府県 学校 企業の健康管理部門 健康保険組合 など</p>

【カリキュラムツリー（令和4年度以降入学生）】

【育英する人材】としての職業的自律性を養い、科学的根拠に基づいた知識・技術を用い、あらゆる年代における人々が「その人らしき生活する」を支えるために必要な能力を備えた看護専門職者

【育英する人材】としての職業的自律性を養い、科学的根拠に基づいた知識・技術を用い、あらゆる年代における人々が「その人らしき生活する」を支えるために必要な能力を備えた看護専門職者

【育英する人材】としての職業的自律性を養い、科学的根拠に基づいた知識・技術を用い、あらゆる年代における人々が「その人らしき生活する」を支えるために必要な能力を備えた看護専門職者

アドミッショ ン ポリシー	カリキュラム ポリシー	1年次		2年次		3年次		4年次		就職先	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
知識・技術 1. 看護に必要なコミュニケーション能力の育成（基礎的知識・技術の習得） 2. 看護実践における問題解決能力の育成（基礎的知識・技術の習得） 3. 看護実践における問題解決能力の育成（基礎的知識・技術の習得） 4. 看護実践における問題解決能力の育成（基礎的知識・技術の習得） 5. 看護実践における問題解決能力の育成（基礎的知識・技術の習得） 6. 看護実践における問題解決能力の育成（基礎的知識・技術の習得） 7. 看護実践における問題解決能力の育成（基礎的知識・技術の習得）	職業実践能力の養成 1. 看護実践における問題解決能力の育成（基礎的知識・技術の習得） 2. 看護実践における問題解決能力の育成（基礎的知識・技術の習得） 3. 看護実践における問題解決能力の育成（基礎的知識・技術の習得） 4. 看護実践における問題解決能力の育成（基礎的知識・技術の習得） 5. 看護実践における問題解決能力の育成（基礎的知識・技術の習得） 6. 看護実践における問題解決能力の育成（基礎的知識・技術の習得） 7. 看護実践における問題解決能力の育成（基礎的知識・技術の習得）	コア科目	コア科目	コア科目	コア科目	コア科目	コア科目	コア科目	コア科目	【5つの能力】 ① 生命の尊厳と人権を尊重した看護の実践力 ② 高齢者の健康増進と生活の質を向上させる看護実践力 ③ 地域保健・公衆衛生の推進力 ④ 看護実践における問題解決能力 ⑤ 看護実践における問題解決能力	国立病院 大学附属病院 民間病院 保健所 介護施設 訪問看護ステーション 訪問看護センター 地域保健支援センター 市町村 都道府県 学校 健康保険組合 など
		基礎的科目	基礎的科目	基礎的科目	基礎的科目	基礎的科目	基礎的科目	基礎的科目	基礎的科目		
専門科目	専門科目	専門科目	専門科目	専門科目	専門科目	専門科目	専門科目	専門科目	専門科目	専門科目	
保健師課程	保健師課程	保健師課程	保健師課程	保健師課程	保健師課程	保健師課程	保健師課程	保健師課程	保健師課程	保健師課程	
助産師課程	助産師課程	助産師課程	助産師課程	助産師課程	助産師課程	助産師課程	助産師課程	助産師課程	助産師課程	助産師課程	

【平成30年度カリキュラム改正 新旧対照表】

		新(平成30年度)										旧(平成29年度)															
		基礎教養科目										基礎教養科目															
区分	授業科目	単位数	必選別	標準開設年次								免許・資格必選別	授業科目	単位数	必選別	標準開設年次								免許・資格必選別			
				1前期	1後期	2前期	2後期	3前期	3後期	4前期	4後期					1前期	1後期	2前期	2後期	3前期	3後期	4前期	4後期				
人間と社会・文化	生命倫理	2	必	○									看護師必		生命倫理	2	必	○								看護師必	
	日本国憲法	2	選	○									看護師選 保健師選		日本国憲法	2	選	○								看護師選 保健師選	
	多文化理解	1	必	●									看護師必		多文化理解	1	必	●								看護師必	
	—	—	—	—									—		経済学	2	選							○		看護師選	
	—	—	—	—									—		社会学	2	選							○		看護師選	
	家族社会学	1	必	●									看護師必		家族社会学	1	必	●								看護師必	
	人間関係論	1	選	●									看護師選		人間関係論	1	選	●								看護師選	
	医療経済学	1	選									●	看護師選		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	コミュニケーション論	1	必	●									看護師必		コミュニケーション	1	必	●								看護師必	
	—	—	—	—									—		子どもソーシャルワーク	2	選							○		看護師選	
	—	—	—	—									—		生活環境と人間	1	選	●								看護師選	
	国際関係論	1	選									●	看護師選		国際関係論	1	選								●	看護師選	
	心理学	1	選	●									看護師選		心理学	1	選	●								看護師選	
	発達心理学	1	必	●									看護師必		発達心理学	1	必	●								看護師必	
	—	—	—	—									—		養教	1	選								●	看護師選	
	体育(講義)	1	選			●							看護師選 保健師選		体育(講義)	1	選								●	看護師選 保健師選	
	体育(実技)	(1)選				○							看護師選 保健師選		体育(実技)	(1)選									○	看護師選 保健師選	
	生命科学	2	必	○									看護師必		生命科学	2	必	○								看護師必	
	神経科学	1	選	●									看護師選		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	人間と自然	環境科学	1	選	●								看護師選		環境科学	1	選	●									看護師選
遺伝学		1	選	●								看護師選		遺伝学	1	選	●									看護師選	
物理学概論		1	選	●								看護師選		物理学概論	1	選	●									看護師選	
化学概論		1	選	●								看護師選		化学概論	1	選	●									看護師選	
生化学		1	必	●								看護師必		生化学	1	必	●									看護師必	
栄養学		1	必	●								看護師必		栄養学	1	必	●									看護師必	
基礎統計・情報処理		(2)必	○									看護師必 保健師選		基礎統計・情報処理	(2)必	○										看護師必 保健師選	
看護情報学		1	選									●	看護師選		看護情報学	1	選								●	看護師選	
コンピューターと医療		1	選			●							看護師選		コンピューターと医療	1	選							●	看護師選		
ヒューマンロボティクス		1	選	●									看護師選		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
人間と情報	日本語表現	2	必	○								看護師必		日本語表現	2	必	○									看護師必	
	—	—	—	—								—		学歴	1	選									●	看護師選	
	英語A	[1]必	○									看護師必 保健師選		英語A	[1]必	○										看護師必 保健師選	
	英語B	[1]必	○									看護師必 保健師選		英語B	[1]必	○										看護師必 保健師選	
	—	—	—	—								—		英語C	[1]選										○	看護師選	
	—	—	—	—								—		英会話	[1]選										○	看護師選	
	医療英会話	[1]選				○						看護師選		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
看護・医学英語	[1]選				○						看護師選		看護・医学英語	[1]選										○	看護師選		
人間と言語	—	—	—	—								—		ドイツ語*	[1]選									○	看護師選		
	中国語	[1]選										看護師選		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

【令和4年度カリキュラム改正 新旧対照表】

新(令和4年度)											旧(令和3年度)										
基礎教養科目											基礎教養科目										
区分	授業科目	単位数	必修	標準開設年次				免許・資格必選別	備考	区分	授業科目	単位数	必修	標準開設年次				免許・資格必選別	備考		
				1	2	3	4							1	2	3	4				
				前期	後期	前期	後期						前期	後期	前期	後期					
基礎教養科目	スタートアップセミナー-自主自覚	2	必	○						看護師必											
	キャリアデザイン	2	必	○						看護師必											
人間と社会・文化	生命倫理	2	必	○						看護師必											
	日本国憲法	2	選	○						看護師選	*										
	多文化理解	1	必	○						看護師必											
	家族社会学	1	必	○						看護師必											
	人間関係論	1	選	○						看護師選											
	医療経済学	1	選	○						看護師選											
	コミュニケーション論	1	必	○						看護師必											
	国際関係論	1	選	○						看護師選											
	心理学	1	選	○						看護師選											
	発達心理学	1	必	○						看護師必											
体育(講義)	1	選			○				看護師選	*											
体育(実技)	(1)	選			○				看護師選	*											
基礎教養科目	生命科学	2	必	○						看護師必											
	神経科学	1	選	○						看護師選											
	環境科学	1	選	○						看護師選											
	遺伝学	1	選	○						看護師選											
	物理学概論	1	選	○						看護師選											
	化学概論	1	選	○						看護師選											
	生化学	1	必	○						看護師必											
	栄養学	1	必	○						看護師必											
	基礎統計・情報処理	[2]	必	○						看護師必	*										
	看護情報学	1	選					○		看護師選											
人間と情報	コンピューターと医療	1	選			○				看護師選											
	ヒューマンロボティクス	1	選	○						看護師選											
	日本語表現	2	必	○						看護師必											
	英語A	[1]	必	○						看護師必	*										
	英語B	[1]	必	○						看護師必	*										
	医療英会話	[1]	選		○					看護師選											
	看護・医学英語	[1]	選		○					看護師選											
	中国語	[1]	選				○			看護師選											

<免許・資格について>

(抜粋)

2. 保健師国家試験受験資格を取得する者は、前項の看護師資格に必要な科目を履修するとともに、専門教育科目の免許・資格必選別欄の「保健師必」の科目を履修する。また、保健師国家試験合格後に保健教諭二種免許状を個人申請する者は、基礎教養科目の備考欄の「*」の科目をすべて履修する。

<免許・資格について>

(抜粋)

2. 保健師国家試験受験資格を取得する者は、前項の看護師資格に必要な科目を履修するとともに、専門教育科目の免許・資格必選別欄の「保健師必」の科目を履修する。また、保健師国家試験合格後に保健教諭二種免許状を個人申請する者は、基礎教養科目の備考欄の「*」の科目をすべて履修する。

新(令和4年度) 専門教育科目											旧(令和3年度) 専門教育科目										
区分	授業科目	単位数	必修	標準開設年次				免許・資格必選別	備考	区分	授業科目	単位数	必修	標準開設年次				免許・資格必選別	備考		
				1	2	3	4							1	2	3	4				
				前期	後期	前期	後期							前期	後期	前期	後期				
専門基礎科目	形態鑑能学	[2]	必	○				看護師必		形態鑑能学	[2]	必	○				看護師必				
	リハビリテーション概論	1	必	●				看護師必		リハビリテーション概論	1	選	●				看護師必				
	感染免疫学	2	必		○			看護師必		感染免疫学	2	必		○			看護師必				
	薬理学	2	必		○			看護師必		薬理学	2	必		○			看護師必				
	疾病治療論Ⅰ	2	必	○				看護師必		疾病治療論Ⅰ	2	必	○				看護師必				
	疾病治療論Ⅱ	2	必	○				看護師必		疾病治療論Ⅱ	2	必	○				看護師必				
	疾病治療論Ⅲ	2	必	○				看護師必		疾病治療論Ⅲ	2	必	○				看護師必				
	疾病治療論Ⅳ	2	必	○				看護師必		疾病治療論Ⅳ	2	必	○				看護師必				
	疾病治療論Ⅴ	2	必	○				看護師必		疾病治療論Ⅴ	2	必	○				看護師必				
	疾病治療論Ⅵ	2	必	○				看護師必		疾病治療論Ⅵ	2	必	○				看護師必				
	精神発達論	1	選			○		看護師選		精神発達論	1	選			○		看護師選				
	臨床心理学	1	選			○		看護師選		臨床心理学	1	選			○		看護師選				
	カウンセリング論	1	選			○		看護師選		カウンセリング論	1	選			○		看護師選				
	公衆衛生学	1	必	○				看護師必	保健師必	公衆衛生学	1	必	○				看護師必	保健師必			
	関係法規	1	必			○		看護師必		関係法規	1	必			○		看護師必				
	疫学	2	選			○		看護師選	保健師必	疫学	2	選			○		看護師選	保健師必			
	保健統計	2	選			○		看護師選	保健師必	保健統計	2	選			○		看護師選	保健師必			
	地域保健	2	選				○	看護師選	保健師必	地域保健	2	選				○	看護師選	保健師必			
	産業保健	1	選				○	看護師選	保健師必	産業保健	1	選				○	看護師選	保健師必			
	学校保健	1	選				○	看護師選	保健師必	学校保健	1	選				○	看護師選	保健師必			
	健康教育	2	必		○			看護師必	保健師必	健康教育	2	必		○			看護師必	保健師必			
	社会保障概論	1	必		○			看護師必	保健師必	社会保障概論	1	必		○			看護師必	保健師必			
	保健医療福祉行政論Ⅰ	1	必		○			看護師必	保健師必	保健医療福祉行政論Ⅰ	1	必		○			看護師必	保健師必			
	保健医療福祉行政論Ⅱ	1	選			○		看護師選	保健師必	保健医療福祉行政論Ⅱ	1	選			○		看護師選	保健師必			
	保健医療福祉行政論Ⅲ	1	選			○		看護師選	保健師必	保健医療福祉行政論Ⅲ	1	選			○		看護師選	保健師必			
ボランティア活動論	1	必		○			看護師必	保健師必	ボランティア活動論	1	必		○			看護師必	保健師必				
看護学概論	2	必	○				看護師必		看護学概論	2	必	○				看護師必					
看護倫理	1	必		○			看護師必		看護倫理	1	必		○			看護師必					
看護理論	1	選	○				看護師選		看護理論	1	選	○				看護師選					
救急看護法	1	選	○				看護師選		救急看護法	1	選	○				看護師選					
専門教育科目	看護の基本技術Ⅰ	[2]	必				看護師必		看護の基本技術Ⅰ	[2]	必					看護師必					
	看護の基本技術Ⅱ	[2]	必		○		看護師必		看護の基本技術Ⅱ	[2]	必		○		看護師必						
	看護の基本技術Ⅲ	[2]	必		○		看護師必		看護の基本技術Ⅲ	[2]	必		○		看護師必						
	ヘルスアセスメント	[1]	必		○		看護師必		ヘルスアセスメントの技術	[1]	必		○		看護師必						
	看護過程	1	必	○			看護師必		看護過程の技術	[1]	必		○		看護師必						
	基礎看護の実践Ⅰ	(1)	必	○			看護師必		基礎看護の実践Ⅰ	(1)	必		○		看護師必						
	基礎看護の実践Ⅱ	(2)	必		○		看護師必		基礎看護の実践Ⅱ	(2)	必		○		看護師必						
	地域・在宅看護学概論Ⅰ	2	必		○		看護師必	保健師必	地域看護学概論	2	必		○		看護師必	保健師必					
	地域・在宅看護学概論Ⅱ	2	必		○		看護師必	保健師必	在宅看護学概論	2	必		○		看護師必	保健師必					
	地域・在宅看護学方法論	[2]	必		○		看護師必		在宅看護学方法論	[2]	必		○		看護師必						
	看護・生活・地域実習	(1)	必	○			看護師必		在宅看護の実践	(2)	必			○		看護師必					
	地域・在宅看護学の実践	(1)	必		○		看護師必		在宅看護学の実践Ⅰ	(2)	必			○		看護師必					
	地域・在宅看護学の実践Ⅱ	(2)	必		○		看護師必		在宅看護学の実践Ⅱ	(2)	必			○		看護師必					
	母性看護学概論	2	必		○		看護師必	助産師必	母性看護学概論	2	必		○		看護師必	助産師必					
	母性看護学方法論	[2]	必		○		看護師必	助産師必	母性看護学方法論	[2]	必		○		看護師必	助産師必					
	母性看護の実践	(2)	必		○		看護師必		母性看護の実践	(2)	必		○		看護師必						
	小児看護学概論	2	必		○		看護師必		小児看護学概論	2	必		○		看護師必						
	小児看護学方法論	[2]	必		○		看護師必		小児看護学方法論	[2]	必		○		看護師必						
	小児看護の実践	(2)	必		○		看護師必		小児看護の実践	(2)	必		○		看護師必						
	成人看護学概論	2	必		○		看護師必		成人看護学概論	2	必		○		看護師必						
	成人看護学方法論Ⅰ	[2]	必		○		看護師必		成人看護学方法論Ⅰ	[2]	必		○		看護師必						
	成人看護学方法論Ⅱ	[2]	必		○		看護師必		成人看護学方法論Ⅱ	[2]	必		○		看護師必						
	成人看護の実践Ⅰ	(4)	必		○		看護師必		成人看護の実践Ⅰ	(4)	必		○		看護師必						
	成人看護の実践Ⅱ	(4)	必		○		看護師必		成人看護の実践Ⅱ	(4)	必		○		看護師必						
	老年看護学概論	2	必		○		看護師必		老年看護学概論	2	必		○		看護師必						
老年看護学方法論	[2]	必		○		看護師必		老年看護学方法論	[2]	必		○		看護師必							
老年看護の実践	(4)	必		○		看護師必		老年看護の実践Ⅰ	(1)	必		○		看護師必							
老年看護の実践Ⅱ	(4)	必		○		看護師必		老年看護の実践Ⅱ	(1)	必		○		看護師必							
精神看護学概論	2	必		○		看護師必		精神看護学概論	2	必		○		看護師必							
精神看護学方法論	[2]	必		○		看護師必		精神看護学方法論	[2]	必		○		看護師必							
精神看護の実践	(4)	必		○		看護師必		精神看護の実践	(2)	必		○		看護師必							
看護管理	1	選			○		看護師選		看護管理	1	選			○		看護師選					
看護教育	1	選			○		看護師選	助産師必	看護教育	1	選			○		看護師選	助産師必				
国際看護	1	必			○		看護師必		国際看護	1	必			○		看護師必					
災害看護Ⅰ	[1]	必		○		看護師必		災害看護Ⅰ	[1]	必		○		看護師必							
災害看護Ⅱ	[1]	選			○		看護師選		災害看護Ⅱ	[1]	選			○		看護師選					
看護研究Ⅰ	1	必		○		看護師必		看護研究Ⅰ	1	必		○		看護師必							
看護研究Ⅱ	4	必			○		看護師必		看護研究Ⅱ	4	必			○		看護師必					
統合実習	(4)	必			○		看護師必		統合実習	(4)	必			○		看護師必					
公衆衛生看護学概論	2	選			○		保健師必		公衆衛生看護学概論	2	選			○		保健師必					
公衆衛生看護学活動論Ⅰ	4	選			○		保健師必		公衆衛生看護学活動論Ⅰ	[2]	選			○		保健師必					
公衆衛生看護学活動論Ⅱ	[1]	選			○		保健師必		公衆衛生看護学活動論Ⅱ	[1]	選			○		保健師必					
公衆衛生看護学管理論	1	選			○		保健師必		公衆衛生看護学管理論	1	選			○		保健師必					
公衆衛生看護学実習Ⅰ	(3)	選			○		保健師必		公衆衛生看護学実習Ⅰ	(3)	選			○		保健師必					
公衆衛生看護学実習Ⅱ	(2)	選			○		保健師必		公衆衛生看護学実習Ⅱ	(2)	選			○		保健師必					
助産学概論	1	選			○		助産師必		助産学概論	1	選			○		助産師必					
围産期医学	1	選			○		助産師必		围産期医学	1	選			○		助産師必					
助産診断・技術学の基礎	1	選			○		助産師必		助産診断・技術学の基礎	1	選			○		助産師必					
助産診断・技術学Ⅰ	[2]	選			○		助産師必		助産診断・技術学Ⅰ	[2]	選			○		助産師必					
助産診断・技術学Ⅱ	[2]	選			○		助産師必		助産診断・技術学Ⅱ	[2]	選			○		助産師必					
助産診断・技術学Ⅲ	[2]	選			○		助産師必		助産診断・技術学Ⅲ	[2]	選			○		助産師必					
助産診断・技術学Ⅳ	[1]	選			○		助産師必		助産診断・技術学Ⅳ	[1]	選			○		助産師必					
地域電子看護	[2]	選			○		助産師必		助産管理	1	選			○		助産師必					
助産管理	1	選			○		助産師必		助産学実習Ⅰ	(8)	選			○		助産師必					
助産学実習Ⅰ	(8)	選			○		助産師必		助産学実習Ⅱ	(2)	選			○		助産師必					
助産学実習Ⅱ	(2)	選			○		助産師必		助産学実習Ⅲ	(1)	選			○		助産師必					
助産学実習Ⅲ	(1)	選			○		助産師必														

【主な就職先・進学先】

※就職先：現在の設置主体別・五十音順、下線は実習施設（2024年度以降受入予定を含む）

<看護師>

● **大学病院** 国立大学法人：群馬大学医学部附属病院、信州大学医学部附属病院、千葉大学医学部附属病院、筑波大学附属病院、東京医科歯科大学病院、東京大学医学部附属病院、東北大学病院、新潟大学医歯学総合病院、山梨大学医学部附属病院/公立大学法人：福島県立医科大学附属病院/学校法人：北里大学病院、杏林大学医学部付属病院、慶應義塾大学病院、埼玉医科大学病院、自治医科大学附属病院、順天堂大学医学部附属病院、昭和大学附属病院、聖マリアンナ医科大学病院、聖路加国際病院、東京医科大学附属病院、東京歯科大学市川総合病院、東京慈恵会医科大学附属病院、東京女子医科大学病院、東邦大学医療センター、獨協医科大学病院、日本医科大学付属病院、日本大学医学部附属板橋病院 等

● **公的病院** 国立研究開発法人：国立がん研究センター中央病院、国立国際医療研究センター、国立成育医療研究センター/独立行政法人国立病院機構：埼玉病院、西埼玉中央病院/地方独立行政法人：神奈川県立病院機構、埼玉県立病院機構、静岡市立静岡病院、東京都健康長寿医療センター、東京都立病院機構、長野県立病院機構、山梨県立病院機構/都道府県：静岡県立静岡がんセンター、東京都立北療育医療センター/市町村：川口市立医療センター、川崎市病院局、公立高島病院、越谷市立病院、さいたま市立病院、佐久市立国保浅間総合病院、市立青梅総合医療センター（旧青梅市立総合病院）、市立甲府病院、市立札幌病院、富山市立富山市民病院、南砺市市民病院、新潟市市民病院、富士吉田市立病院、松戸市立総合医療センター、横浜市立市民病院/病院企業団：公立阿伎留医療センター、公立昭和病院、公立福生病院/行政組合：伊那中央病院/独立行政法人地域医療機能推進機構：さいたま北部医療センター、東京山手メディカルセンター/独立行政法人労働者健康安全機構：横浜労災病院/日本赤十字社：さいたま赤十字病院、武蔵野赤十字病院/社会福祉法人恩賜財団済生会：東京都済生会中央病院/厚生農業協同組合連合会：相模原協同病院、篠ノ井総合病院/国家公務員共済組合連合会：九段坂病院、立川病院、東京共済病院、虎の門病院、三宿病院、横浜栄共済病院、横須賀共済病院/公立学校共済組合：関東中央病院/日本私立学校振興・共済事業団：東京臨海病院 等

● **民間病院** 公益法人：榊原記念病院、三楽病院、東京北医療センター、練馬総合病院、複十字病院、新山手病院/社会医療法人：圏央所沢病院、さいたま市民医療センター、埼玉石心会病院、立川相互病院、中頭病院、東大和病院/医療法人：上尾中央医科グループ（八潮中央総合病院等）、IMSグループ（板橋中央総合病院等）、荻窪病院、駒木野病院、三恵病院、所沢中央病院、戸田中央メディカルケアグループ（TMGあさか医療センター、戸田中央総合病院、西東京中央総合病院等）/社会福祉法人：秋津療育園、三井記念病院/一般財団法人：東京警察病院、東京武蔵野病院/株式会社：NTT東日本関東病院、東京通信病院/医療生協：埼玉協同病院 等

<助産師>

● **大学病院** 学校法人：信州大学医学部附属病院、聖路加国際病院、筑波大学附属病院、東京慈恵会医科大学附属病院、日本医科大学付属病院、日本大学医学部附属板橋病院 等

● **公的病院** 独立行政法人国立病院機構：高知病院、埼玉病院/地方独立行政法人：東京都立病院機構/市町村：市立青梅総合医療センター（旧 青梅市立総合病院）/厚生農業協同組合連合会：秋田県厚生農業協同組合連合会/日本赤十字社：さいたま赤十字病院、長岡赤十字病院、武蔵野赤十字病院/社会福祉法人恩賜財団済生会：済生会川口総合病院 等

<保健師>

● **地方自治体** 都道府県:千葉県、東京都/埼玉県市町村:入間市、加須市、川口市、越谷市、狭山市、所沢市、飯能市、三芳町/特別区:荒川区、板橋区、大田区、北区、台東区/その他市町村:牛久市、小田原市、柏市、川崎市、諏訪市、新潟市、松戸市 等

● **民間病院** 社会医療法人:宇都宮記念病院総合健診センター/医療生協:埼玉協同病院

<進学>

※学校種別・五十音順

● **大学院** 国際医療福祉大学大学院、東京医療保健大学大学院、日本赤十字秋田看護大学大学院

● **大学・短期大学専攻科** 岩手看護短期大学専攻科 助産学専攻、埼玉医科大学短期大学 母性看護学専攻、東京都立大学 助産学専攻科、

● **大学別科** 北海道教育大学養護教諭特別別科

● **専門学校** 首都医校 助産師学科、日本福祉教育専門学校 社会福祉士養成科、母子保健研修センター助産師学校、早稲田医療技術専門学校 保健学科 等

【東京家政大学校歌】

青木誠四郎 作詞

長谷川良夫 作曲

♩ = 76

1. むさし ののこだち もふか く とり
うとうみどりのおかべ - やわらぎの てをと
りかわし いとた かき のぞみにもえて
ああ - われ - ら - わかき このひを たゆみ
なく - いざ - や はげ ま ん

1. むさしのの木立もふかく
鳥うとう緑のおかべ

2. あおぐもの そらすみわたり
風かおる この学びやに

3. あさかげの光にはえて
よみがえる 祖国のゆくて

やわらぎの てをとりかわし
いと高きのぞみにもえて

いさおしの 歴史をしのび
新しき智慧と技術(わざ)とを

はるかなる 試練の道を
ふみこえて すすむ乙女ぞ

ああわれら わかきこの日を
たゆみなく いざやはげまん

ああわれら わかきこの身に
くもりなく いざやみがかん

ああわれら わかき命を
声高く いざやたたえん

編集後記

本誌作成にあたり、ご多忙の中、快くご寄稿くださった皆様方、根拠資料の提供や掲載許諾等にご協力くださった本学狭山学務部学務課、ヒューマンライフ支援機構地域連携推進センター、広報・宣伝部Web戦略課、アドミッションセンター、総務部総務課の皆様方に、心より感謝申し上げます。

なお、歴代の看護学科ホームページ・広報係が学科ホームページやInstagram等をこまめに更新してくれていたことが、原稿作成の助けとなりました。また、看護学科カリキュラム検討部会、国家試験支援部会、看護ボランティアサークル顧問には原稿を確認していただきました。看護学科10周年記念誌作成プロジェクトチームには、原稿の依頼と取りまとめ、情報収集、校正等にご尽力いただきました。

時間や紙面の制約により、実習施設、後援会、緑苑クラブ、緑窓会、退職された教職員の皆様方にはご寄稿を依頼することができず、記載が不十分な部分も多々ありますが、何卒ご容赦願います。

18歳人口の減少により大学を取り巻く状況は年々厳しさを増しており、大学教育のあり方も変化していくことが予測されます。時代の変化に対応しつつ、これからも本学看護学科の教育理念を貫き、いのちの誕生から老い(死)まで「その人らしく生活する」を支える看護実践者を育成してまいりたいと存じます。教職員、在校生、卒業生、関係者の皆様方におかれましては、引き続き看護学科をご支援くださいますよう、何卒よろしく願いいたします。

2024年3月吉日

東京家政大学 健康科学部
3代目看護学科長 山口 佳子

東京家政大学看護学科10周年記念誌

—「その人らしく生活する」を支える看護実践者の育成—

編集：東京家政大学看護学科10周年記念誌作成プロジェクトチーム
(鈴木幹子、山口佳子、岩田みどり、太田美帆、玄番千恵巳)

発行者：東京家政大学 健康科学部 看護学科
〒350-1398 埼玉県狭山市稻荷山2-15-1
電話 04-2952-1621(代表)

発行年：2024年3月吉日



東京家政大学
TOKYO KASEI UNIVERSITY